

73
1362
2

原病學通論卷之三目次

外因

寄生

體內動物

絛蟲

「テニア。ソム」

「テニア。メヂオカ子ラタ」

「テニア。エキノボクス」

「テニア。ホトリオセバリス。ラチス」

「トレマトオ」



91-1958

原病學通論
卷之三目次
一
三
發
舎

「チ」 ストマ。ヘパチキム

「チ」 ストマ。ラキリ。ヒーマニ

「チ」 ストマ。ヘマトビム

「子」 マテルミア 圓蟲

蛔蟲

蟯蟲

腎蟲

「ア」 ンキロストマム。ゴオデヌム

螺旋毛蟲

「キ」 ニヤ 蟲



體表動物

「ア」 カラス。ホルリキロルム

疥癬蟲

虱

蚤

體表植物

「ト」 リコキトントンデン

「ア」 コリラン

癩風

體內植物

「イイデオユム。アルビカニス
カリシナ。ヴントリキリ」
「マキラ。フー」

外襲病毒論

病毒ノ侵襲法

原病學通論卷之三 目次畢



原病學通論卷之三

和蘭教師 亞爾茂聯斯 講述

東京 安藤正胤

膳所 村治重厚 記聞

松江 熊谷直温

外因下

寄生

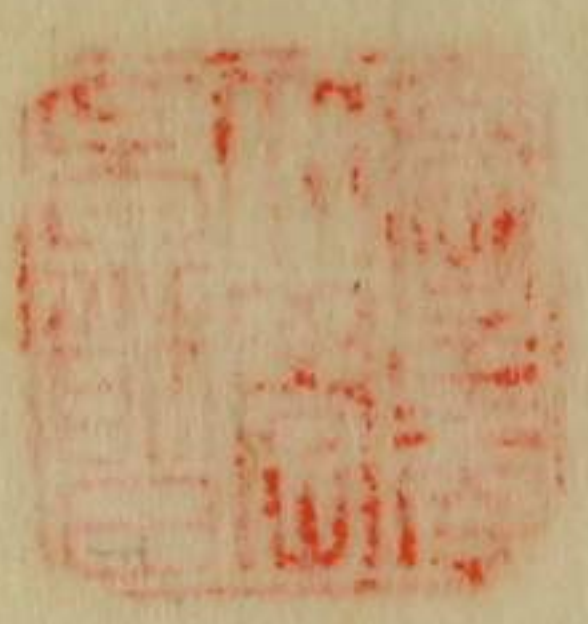
夫、人ノ體內ニ於ケル某組織、或ハ體外肌面ニ在
リテ、生活セル動物ハ、總テ之ヲ寄生ト云フ、是
亦病ノ原因ト為ル、往古ハ體中ニ特發スル者ト

謂ヒシカ、輓近ニ至リテ、其多クハ種子ノ形狀ニ
テ、體內ニ來ルヲ確知セリ、或ハ他ノ動物ニ觸接
シテ、直ニ之ヲ受クル者アリ、動物及植物性寄生
ヲ分ケテ、更ニ體內體表ノ二般トス

體內動物

條蟲

其體ノ造構ハ、數多ノ細片相連節シテ成ル、故ニ
關節動物 其形狀細帶ノ如ク、口肛共ニ之ヲ具セ
ト云フ 數箇ノ吸盤アリ、稍突出セル輪狀盤
ス、前端部ニ數箇ノ吸盤アリ、特ニ人體ニ在ル種屬ノ
條蟲ノ種屬種々アレハ、



ミ、精密ニ知ルヲ得タリ、

第一「テニアソル」ハ、一般ニ條蟲ヲ謂フ、

ハ、其長九、二十七ヨリ三十「テシ」トスニ至
ル、頭ハ大帽子鉞頭ノ如ク、三角形ニシテ、稍圓ナ
リ、而シテ無孔ノ吻狀物アリテ、前端ニ突出ス、之
ヲ圍ミテ、兩叉鈎羅列ス、鈎下ニ四吸盤アリ、前後
左右、各位ニ據リテ、稍突起シ、自在ニ伸縮出没ス
可ク、而シテ細長頸ニ終ル、其頸部ハ關節ナク、唯
横線アルノミ、體ニ至レハ、片々關節ヲナス、其關
節、頸ニ近キ部ニ在リテハ、短小ニシテ、漸次ニ遠

サカルニ從ヒ、發育シテ長大ト為ル、特ニ頸ヲ距
 ルノ第四百ノ關節ハ、十分ニ發生シ、方形ニシテ
 長十「シリ。メートル」トル、横徑五「シリ。メートル」トルナリ、毎
 關節各自ニ雌雄兩性生殖機ヲ具フ、其雄性器ニハ
 陰莖、睪丸、輸精管アリ、雌性器ニハ、卵巢アリ、細管
 ヲ以テ、中央ノ大管ニ通ス、細管ハ、喇叭管ニ應シ、
 大管ハ、子宮ニ應ス、
 大管又細管ヲ生ス、之ヲ腔トス、進ミテ側縁ニ至
 レハ、一孔アリ、陰莖ト共ニ茲ニ終ル、此孔ヲ生殖
門ト稱ス、此門片々、左右ニ交換シテ存シ、又時ト
 シテ、皆側縁ニ偏スル「ア」リ、或種屬ニ於テハ、側
 縁ニ在ラスシテ、中

中央ニ開 此蟲腸内ニ在ル非ハ、頭上ノ鈎ヲ以テ、小
 腸粘膜ニ固着ス、其各節ノ生殖器、交接期至レハ、
 雌器中ニ多ク卵ヲ生シテ受胎ス、其之ヲ受胎セ
 シムルハ、各同節ノ雌雄、相交接スルニ由ルカ、將
 一節ノ精液、他節ノ卵ニ逢フテ、受胎セシムルカ、
 之ヲ確識スル「能」ハス、此問ノ起ル所以ハ、繚蟲
 セルヲ以テ、一節ノ側縁直ニ於テ、迂曲シテ存
 可シ、故ニ於ケル生、殖門ニ於テ、他節ノ側縁ニ接ス
 殖門ニ於ケル生、殖門ニ於テ、他節ノ側縁ニ接ス
 接ス可キニ似タリ、而シテ一節受胎スレハ、直
 接ニ離落シテ、他節ト分別ス、故ニ片々糞中ニ混シ
 テ、體外ニ出ル「ア」リ、或ハ自己ニ運動シテ、肛門

ヲ出ルコトアリ、其受胎シテ離落スルハ、必^ス末端ノ
部位ニ在リ、而シテ頸部ニ於テ、逐次ニ發育シテ、
新節ヲ生ス、或^レ動物學者、繚蟲ノ性ヲ推考シテ、謂
ヘラク、繚蟲ハ、各節各箇ノ動物ニシテ、一頭ヲ共
ニスルナラン、宛^モ一體中ニ數多ノ動物、存在スル
カ如シト、故ニ之ヲ雜合動物ト云フ、然レモ其性
ノ如何ヲ問ハス、總テ一節受胎スレハ、直ニ離落
シテ、體中ヲ辭ス、其肛門ヲ出ルニ方リテ、細小ノ
寒冷物ノ觸ル、カ如キヲ覺エ、或^ハ長クシテ糞
ト共ニ出ルアリ、是糞ノ排泄ニ頼ルニ非ス、自己

運動シテ出テ去ルナリ、爾後其節ハ盡腐敗スレ
ル卵ハ依然トシテ生存ス、若^シ繚蟲ヲ有セル人、便
秘スルキハ、斷節體中ニ於テ分解シ、卵獨^ニ發生ス、
此卵ハ糞中、或^ハ水中ニ在ルモ、曾テ死セバ、稀ニ
體中ニ入りテ、發生スルコトアリ、先^ニ腸ニ入り、腸液
其外膜ヲ溶解シテ、卵體暴露ス、其形圓^ニシテ、四
箇乃至六箇ノ細鍼ヲ生シテ直立ス、之ヲ環^ニ腸
壁ヲ穿テ、又脈管ヲ穿テ、脈管中ニ入リ、血液又
循環^ニ從テ、他ノ諸部ニ至ル、例之^ハ、腦、肝、腸間膜、

筋肉、皮下結締織等ニ至ルカ如シ、若或器械ノ組
織中ニ至レハ、結締織囊ヲ以テ、被覆セラル。是、其
組織ヲ刺戟シテ、滲出物ヲ生シ、依テ更ニ發生ス
ル者ニテ、子蟲ヲ周圍ノ組織ト、全然分界ス。此囊
中ノ實體ヲ「スコレク区」ト云フ、此「スコレク区」ハ、
囊壁面ノ一部ヨリ頭ヲ生ス、其頭ノ發育スル、一
様ナラス、或ハ壁面ヨリ、外部ニ向ヒ、或ハ内部ニ
向フ、而シテ伸縮出沒、自在ナルヲ以テ、或發外方
ニ頭ヲ挺出シ、或ハ内方ニ没入ス、其形狀、全ク「テ
ニア」ソムムノ頭ト同シク、四個ノ吸盤ト、環列鈎

トヲ具有ス、此蟲了ハ、特ニ豚肉中ニ多シ、人體ニ
モ亦筋、腦、肝、或ハ眼球中ニ存スルアリ、之ヲ試
ミント欲セハ、繚蟲ノ一節ヲ大豚等ニ食セシメ、
二三週ヲ經テ、之ヲ殺シ、剖驗スルキハ、筋肉或ハ
他ノ組織中ニ多ク存在ス、而シテ其發生ハ、唯頭
ノ形ニ止マリ、生殖器モ未、具ハラリルヲ以テ、卵
ヲ生スルヲナシ、故ニ筋肉中ニ在リテハ、長ク、ス
コレク区ノ景況ヲ存シテ、繚蟲ニ變スルヲ能
ス、然レモ若人、或ハ動物ノ腸中ニ入ルヲ得ハ、
其囊、腸液ノ為ニ消化シ、蟲體始メテ裸露シ、其鈎

病原學通論 卷之三 三

ヲ以テ腸壁ニ懸リ、漸次ニ發生シテ、遂ニ真ノ縲
蟲ニ變ス。

第二、テニア。メジオカ子ラダ。是縲蟲ノ大ナル者
ナリ、其節々更ニ廣ク、且、長クシテ、頸部モ亦稍太
シ、頭頂ハ扁平ニシテ、四個ノ吸盤アレハ、吻狀ノ
突出ト、鈎トヲ具ヘス、其他發育ノ法、及體ノ形狀
ニ至リテハ、些少モ縲蟲ト異ナルヲナシ、又スコ
レクスコノ形狀ニテ、家畜ノ筋肉、或ハ内臓中ニ在
リ、若人、其肉ヲ食フニ、調理不熟ナル時ハ、此種ヲ
體中ニ宿ルルアリ。

第三、テニア。エキノコククスハ、縲蟲ノ最短小ナル
者ニシテ、長、四ミリ。メートルニ過キス、纒ニ三四
節ヨリ成ル、又頭頂ニ吻狀ノ突起アリ、三十乃至
四十ノ鈎ニテ周匝シ、其下方ニ四個ノ吸盤ヲ具
フ、終末ノ一節ニ生殖器ヲ有シテ、受胎スレハ、其
節脱落シ、更ニ頸部ヨリ、新節ヲ生スルヲ、他ノ者
ニ異ナラス、此縲蟲ハ、特ニ犬ノ腸内ニ多ク視ル
所ニシテ、未、人身ニ之、アルヲ知ラズ、然レモ其卵
體ハ、所謂「スコトククス」トナリテ、屢、人身ニ諸器中
ニ在リ、アイストラシド英國ノ北人ニ最多シ、大抵

京師學道論
卷之三
三

肝、腎、卵巢、腦、腹膜、皮下組織、肺、心、骨等ニ生シ、筋肉
 中ニハ却テ少ナシ、其數ハ纔ニ一二個ナルアリ、
 稍多キアリ、甚シキハ數百ニ及フ、若腹内ニ於テ、
 増育スルキハ、腹肚腫脹緊滿シテ、殆腹水ト疑似
 スルニ至ル、此スコレクスムヲ名ツケテ**含水囊**ト
 云フ、外表ハ又結締織囊ニテ包ワレ、實體ハ透明
 ノ彈力膜ヨリ成リ、裡面ハセル膜ニテ被ハル、内
 部ハ透明無色ノ液ヲ含ミ、無數ノ小囊、其液中ニ
 游泳ス、蓋此小囊ハ彼ノセル膜ヨリ發育スル者
 ナラン、試ミニ之ヲ截レハ、其裡面ニ無數ノ白キ

稷子大ノ顆粒アリテ、附着スルヲ見ル、顯微鏡ニ
 テ之ヲ照シ視レハ、顆粒悉、絲蟲ノ頭ヲ含ミテ、其
 頭或ハ内ニ嵌入シ、或ハ外ニ突出ス、是其伸縮自
 在ナルニ由レリ、爰ヲ以テ見レハ、囊ノ大ナル者
 ハ、小ナル者ヲ含ミ、其小ナル者ヨリ、更ニ小ナル
 者ヲ生ス、故ニ又**複雜含水囊**ノ名アリ、含水囊モ、
 終ニ老衰スルキハ、外層ノ結締織、硬固シテ軟骨
 様ニ變シ、石灰質ニ富ム、然ルキハ、其内部ニ頭ヲ
 含マズ、唯、鈎ヲ留ムルノミ、之ヲ**アセハロ**ニス、小
 無頭囊ト云フ、是、營養ノ路ヲ失ヒ、發育スルヲ能
 義

ハズシテ終ニ吸収セシ者ナル可シ若此動物死
 スルハ患害自ラ平癒スルニ至ル或人ニ於テ
 ハ尿或ハ痰中常ニ囊ヲ雜ヘ又大便ヨリ之ヲ漏
 シ其久シキハ十年間ニ及フコアリ是皆其居處
 ノ異ナルニ由ルノミ或ハ又腹部等ニ在リテハ
 外方ニ向ヒテ腫張突出シ且他器ヲ壓迫シテ其
 部位ヲ變シ加之刺戟ノ為ニ其器炎ヲ發シ遂ニ
 萎縮スルニ至ル此囊ノ發育ハ極メテ緩徐ニシ
 テ通常疼痛ヲ發スルコトナシ○各種絲蟲子ノ發
 育法ハ悉種々ノ動物ニ於テ試驗シテ發明セル

所ナリ若含水囊ヲ含メル筋肉等ヲ犬ニ食セシ
 ムルハ三日ノ後既ニ十二指腸内ニ在リテ其
 體頸部ヨリ延長シ片々關節ヲ具ヘ二月ニ滿メ
 スシテ生殖器械全備シ受胎シテ其節脫離セル
 ニ至ル又脫離セル一節ヲ家畜ニ食セシムレハ
 十五日ヲ經テ其筋肉中ニ含水囊ヲ生ス
 第四テニアポトリオセバリスラチスハテニアポ
 トリオセバリスラチス種類ニシテ人體ニ見ル所
 者ナリ頭部ハテニアソリスラト異ニシテ稍楕圓
 長形ヲ具ヘ前部頂ニ披裂ヲ切以テ吸盤ヲ用フ

ナス、頸ハ細長ニシテ、自在ニ伸縮ス可シ、長ハ種々差等アレ、凡六ノトヨリ十八ノトヨリニ至リ、凡三四千ノ節ヲ具有ス、此節體外ニ出レハ、其始ハ殆、方形ナレ、後ニハ収縮シテ、其廣徑、長徑ニ優ル、每節二個ノ孔アリテ、生殖作用ヲ為ス、其前面中央ノ一孔ハ、雄性ニシテ、後面中央ノ一孔ハ、雌性ノ生殖器ナリ、其脱落スル片ハ、節々ナラズシテ、必數節相續キ、一定時期ヲ以テス、例之三月ノ頃ニ、脫離スルハ、十一月ノ然レ、凡其卵ハ、頃ニ至リテ、再脱離スルカ如シ、常ニ便ト共ニ漏レ去ル、卵ノ形狀楕圓ニシテ、外

殼極メテ透明ナリ、故ニ胚素分裂ノ狀、透見ス可シ、卵ノ一端ニ口アリ、蓋ヲ具フルカ如ク、自在ニ開闔ス、胚素化成シテ、子蟲ト為ル片ハ、自ラ蓋ヲ排キテ出デ、頭ニ生シタル、六箇許ノ纖毛ヲ振り、尿或ハ糞汁中ニ浮遊ス、此子蟲若、腸中ニ入ルヲ得ハ、スコレクスト為ラスシテ、直ニ成長シテ蟲ニ變ス、其腸ニ入ルハ、多クハ、河湖ノ水ト共ニ入ルヲ以テ、河水等ヲ汲ミ、飲料ニ供スル地ニ於テハ、此蟲ヲ具フル人特ニ多シ、
繚蟲ノ徵候、繚蟲或ハスコレクストノ為ニ、發スル

症候ハ、蟲ノ形狀ト、其居處トニ由リテ、一樣ナラ
 ス、若、腸ニ在ルルハ、腹部不安、痙攣性疼痛、口唇、鼻
 孔、肛圍等ノ癢痒ヲ發ス、或ハ便秘シ、或ハ下利シ、
 又食欲減却スルヲアリ、之ニ反シテ増進スルヲ
 アリ、又此シモ如此キ徵候ナク、唯、時々蟲ノ熟片
 便ト共ニ漏レ出ルヲ以テ、知り得ルヲ多シ、小兒
 ニ在リテハ、多ク腸ノ神經ヲ刺衝シ、反射性ノ症
 候ヲ發ス、例之ハ、擲ノ如シ「スコック」ニ放テハ、更ニ危
 險ナルヲ多シ、例之ハ、眼ニ在レハ、失明シ、通常脈絡膜ニ
 在レハ、又網膜ニ入ルヲアリ、其時、檢眼
 鏡ヲ以テ檢スレハ、其頭出沒ノ状著シ、眼ニ在レ

ハ、種々ノ神經麻痺、或ハ搐搦、卒中等ヲ發ス、然レ
 氏筋ニ在リテハ、輕微ノ疼痛ヲ覺ユルノミニテ、
 麻痺等ヲ發スルニ至ラス、含水囊ハ、唯、其形狀ノ
 大ナルヲ以テ、患害ヲ發ス、如何トナシハ、他器ヲ
 壓迫シテ、其部位ヲ變シ、之ヲ刺衝スレハナリ、腹
 ニ在リテハ、腹部腫脹突出シテ、宛、腹水ニ疑似ス
 ルニ至ル、腹水ニトコロイカレヲ刺セハ、通常蛋白
水囊ニ在リテハ、水中ニ鈎或ハ細胞ヲ含
ミテ出ツ、又胞中ニ頭アルヲ見ルヲ含
等ニ在リテハ、骨萎縮シテ、起立歩行スルヲ能ハ
 ス、以上論スル所ニ據レハ、其居處ノ異ナルニ由

リテ種々ノ症候ヲ發スル者ナリ、

トレマトーダ

其形狀楕圓ニシテ、扁平ナリ、節片ヲ具ヘス、前部ニ口アリ、又營養管ヲ具フ、然レモ肛門ナシ、其腹部近傍ニ一個ノ吸盤ヲ具フ、此蟲成熟シテ受胎機ヲ具フル者ト、未熟ニシテ其機ナキ者トアリ、乙種ハ水中、或ハ田螺、魚類ノ體中ニ在リテ生活ス、故ニ調理不熟ニシテ此等ノ品類ヲ食スルハ、人或ハ哺乳動物ノ腸中ニ在リテ發育シ、甲種ニ變ス、既ニ變スレハ、雌雄ノ生殖器械ヲ具ヘ、卵

ヲ生スルニ至ル、此種類ニテ、人體中ニ見ル所ノ者ヲ論ス、

第一、ガストロマヘバチキユム ガストロマヘバチキユムハ、ニロノ義ナリ、是ナリ、口ト一箇ノ吸盤トアルヲ以テ斯ク

命名スルナリ、此種屬ハ肝管中ニ存ス、或ハ腸ノ大靜脈、及其他ノ靜脈中ニ竄入シ、又體中或部ノ膿瘍ニ入り、之ヲ截開スレハ、膿ト共ニ出ルヲアリ、凡十八ミリメートルノ長ナリ、

第二、ガストロマキユリヒトマニシモ亦同種ナレ

モ、必、眼中ニ行ク者ニシテ、稍異ナリ、此水晶體中

ニ存ス、

第三、子マテルミアハ、血中ニ存スル者ニ

シテ、多クハ門脈中ニアレトモ、或ハ直腸、膀胱等ノ

静脈、脾静脈、或ハ膀胱粘膜、腎、腸粘膜等ニ在リ、

子マテルミア 圓蟲

其體圓柱狀ニシテ、節ヲナサス、口ト肛門トヲ具

ヘ、雌雄別アリ、其種屬ハ、左ニ擧クルカ如シ、

第一、蛔蟲 アスカリス、ロンブアリコイデアトハ、體內

蟲ノ中最多ク、特ニ人體中ニ見ル所ノ者ナリ、其

長、凡十五センチメートルヨリ四十センチメートル

トルニ至ル、前端ニ三箇ノ結節アリテ、口ヲ圍ム、

是此種ノ確兆ナリ、雄ハ雌ニ比スレハ短ク、尾端

稍彎曲シテ、圓錐狀ヲナス、雌ノ尾端ハ彎曲セス

シテ、鈍圓ナリ、雄ハ其生殖器體ノ後部三分一ニ

在レトモ、雌ハ體ノ前部三分一ト中部三分一トノ

際ニ絞部アリテ、腔ヲ具フ、腸ハ全體ニ亘リ、肛ハ

尾端ニ在リ、體中、腸ヲ除クノ他ハ、悉ク生殖器ニシ

テ、雄ハ睪丸、輸精管ヲ充テ、雌ハ白色星形ノ卵巢

ヲ充テ、其中ニ無數ノ卵ヲ含有ス、實ニ動物中、卵

ヲ含ムノ多キ此蟲ニ優ル者ナシ、一蟲ノ卵、凡六

千萬許アリ、此卵水中ニ入りテ、多クハ腐敗シ、或ハ魚腹ニ葬ラル、其人ノ腸中ニ入ル所以ハ、卵ヲ含メル水ヲ飲ミ、或ハ卵ヲ食ヒル魚ヲ食ヒ、其調理ノ全カラサルニ由ル、通常人ノ小腸内ニ在リテ、蕃殖スレバ、他部ニ遊走シ、胃、膽管等ニ入り、或ハ口、鼻孔ニ入ルヲアリ、又胃管ヲ經テ、口内ニ入ラントスル片、路ヲ轉シテ、氣管ニ入ルヲアリ、多クハ死後ニアレバ、稀ニハ失氣ノ間ニ於テ、亦ナキニ非ズ、蛔蟲ノ腸中ニ在ルハ、僅ニ一條ナルヲアリ、或ハ非常ニ多クシテ、二千條許ニ至リ、日々

五十條許ヲ吐下シテ、一週間餘ニ及フヲアリ、昔時ハ驅逐ノ法ヲ知ラザリシカ、近世ハ容易ニ之ヲ驅逐シ得ルニ至レリ、若ク夥多ナル片ハ、腸ニ患害ヲ發シ、無數相纏絡シテ、一塊トナリ、腸中ニ盤原ス、是其死後ニ成ルカ、或ハ生活中ニ如此キ狀ヲ為スカ、未之ヲ確定スルヲ能ハス、其最要ノ症候ハ、先、腸カタル腸ニ充血ヲ發シ、分泌旺盛ス、ヲ發シ、多クハ惡心ヲ兼子、腸痙攣性疼痛ヲ覺ユ、此時驅蟲劑ヲ投スレハ、之ヲ吐下シテ治ス、其疼痛ヲ發スル所以ノ理ハ、知ル可カラスト、雖恐クハ一條、若クハ數條

原病學通論 卷之三 三

ノ蛔、辨間ノ如キ狹隘ノ部ニ在リテ、發スル者ナ
ル可シ、小兒ニ在リテハ、多ク反射性ノ運動例之
ハ、播擲等ヲ發ス、若シ膽管喉頭ノ如キ、狹隘ノ部ニ
在レハ、一條ト雖之ヲ填塞スルニ至ル、喉頭、氣管
等ニハ、
ハ、實息ヲ發スルカ如シ、其患者生活ノ間ハ、
由ルヲ知ラサレ、死後剖驗シテ、殆メテ之ヲ
倍リ、或ハ一條ノ蛔ヲ吐シ、又極メテ稀ナレ、
テ、實息頭ニ瘻ユル、アリ、其初メ腸ノ一部ニ炎
ノ腸壁ヲ穿通スル、アリ、遂ニ腹腔内ニ入
ヲ起シ、膿瘍トナシテ、之ヲ穿テ、遂ニ腹腔内ニ入
リ、腹膜炎ヲ發ス、而シテ臍傍或ハ鼠蹊部ニ膿瘍
ヲ誘起シ、之ヲ截開スル、ハ、膿ト共ニ漏ル、

アリ、蛔ノ性ヲ知ルハ、須要ノ一事ナリ、是、歌以私
底里家ノ為ニ、他蟲ヲ以テ、欺カル、アレハナ
リ

第二、蟯蟲

ヲキセル。左ルミキヲトリスハ亦屢

人體ニ於テ見ル所ノ者ナリ、白色糸ノ如キ小蟲
ニシテ、其數多ク直腸、結腸等ニ住ス、通常雌ハ雄
ヨリ多シ、雌ノ長ハ、ミリ。メイトル乃至十二ミリ。
メイトル雄ノ長ハ、ハ之ニ半バス、持ニ小兒ニ多シ、
又無數相纏絡シテ、一塊トナル、アリ、婦人ニ在
リテハ、直腸ヲ出テ、腔及尿道ニ入り、先直腸加多

爾、症候ヲ發シ、脛ニ入ルキハ、脛加多爾ヲ發ス、
 白帶下症小兒ニ在リテハ、肛圍ニ癢痒ヲ覺エ、之ヲ搔
 破シテ皮膚剥脫シ、煎汁ヲ以テ灌腸スレハ、怒ヲ治スエキセバ、葱ヲ發スルニ至ル、海

第三、腎蟲

赤色蟲ナリ、固セル血線ノ如シ赤色ナルヲ以テ、雄ノ長一メートル雌ノ長一メートル
 雄ハ之ニ半バズ、腎盂、輸尿管、或ハ腎周圍ノ脂
 肪組織中ニ存スルヲアリ、輸尿管ニ在ルキハ之
 ヲ填塞シテ、腎ノ充張腫大スルニ至ル、其體ヲ去
 ルハ、或ハ尿ニ混シテ出テ、或ハ腰部ニ膿瘍ヲ生

シテ、之ヨリ出ツ、然レモ此蟲ハ、屢見ル所ニ非ス、
 第四、アインキロストマム、テオテヌームモ亦圓柱

狀ノ蟲ナリ、雄ハ六ミリ、メイトルトル乃至十ミリ、
 一トルト雌ハ十四ミリ、メイトルトルノ長ナリ、暖國ニ
 多シ、エチオピア十二指腸中ニ存シ、腸粘膜炎ヲ穿テ、
 血液ヲ吸引スルヲ、水蛭ノ如シ、若十分ニ吸引ス
 レハ、脫離シテ、其口ヨリ出血ス、多キ片ハ、一人ニ
 千條許ヲ生スルニ至リ、貧血諸症ヲ發ス、エチオピア
 小ニ放テハ、此蟲ヲ有スルヲ常ノ如ク、其國人貧
 血症ヲ患フル者多シ、

第五、螺旋毛蟲

後ト雖圓柱狀ノ細蟲ニシテ雄ハ長一
トル半雌ハ三ミリ。メイトルナリ其體糸狀ニシ
テ旋轉ス營養管全身ニ互リ此管ヲ區別シテ咽
頭胃腸トス其子ハ胎生ナリ既ニ成長セル者ハ
温血動物ノ腸中ニ住ス特ニ哺乳動物例之ハ豚
牛等ニ多シ腸ノ粘膜炎中ニ在リテ成長スル最
速ナリ其卵ハ胎内ニ於テ成育シ既ニ蟲形ヲ成
シテ腔ヨリ出テ腸粘膜炎ヲ侵襲シテ腸壁層間ノ
結締織中ニ道ヲ取り遂ニ胸腹四肢等ノ諸筋ニ

往キ筋纖維中ニ入ル乃筋纖維萎縮シ筋莖
ニコレ肥大シテ蟲ノ包囊ト為リ子蟲囊中ニ潜伏
シテ自ラ螺旋狀ヲ為ス若再胃中ニ入ルヲ得サ
レハ長ク此形態ヲ存シテ發育セス但經久後ハ
包囊石灰質ヲ含ムノミ其筋中ニ在ル者ハ無數
ニシテ枚擧スルヲ能ハス把提顯微鏡ヲ以テ之
ヲ照見スレハ赤色中ニ無數ノ帶白灰色ノ粒狀
物散在ス又子蟲ヲ見ルニ其囊若石灰ニ化スル
片ハ醋酸ノ如キ酸類ヲ以テ之ヲ溶解シ蟲體ヲ
裸露スルヲ良トス人此種ノ蟲ヲ傳ヘ得ルハ子

蟲ヲ含メル肉ヲ食スルニ由ル特ニ豚肉ヨリ受
 クルヲ多シ、牛肉ノ如キモ亦含マサルニ非レ、
 其數少ナクシテ且稀ナリ、若如此キ肉ヲ食スレ
 ハ子蟲腸内ニ於テ發育シ更ニ子ヲ生シテ多ク
 筋中ニ入ル此肉ヲ犬兔鳩鰻鱺等ニ食セシムル
 モ亦然リ、○此蟲ニ由リテ發スル症ハ筋中子蟲
 ノ多寡ニ關涉シテ異ナリ、重症ニ在リテハ患者
 四肢倦怠シテ、運轉困難シ、精神抑鬱、食欲缺乏、發
 熱ス、恰_テ恭_テ衰_テ度_ニ初期ノ兆候ニ異ナラス、而シテ
 諸筋劇痛シテ裂クカ如シ、殆_ト運動スルヲ能ハス、

筋質硬固シ之ニ觸ルレハ痛楚ヲ加ヘ、堪ヘ難
 遂ニ四肢屈曲シテ皮膚浮腫ヲ發ス、諸症増進ス
 レハ必死ス、甚_ク危險ノ症ナリ、若_ク呼吸筋ニ之ヲ生
 廢止スルヲ以テ呼吸
 困難トナリ終ニ死ス、輕症ナレハ唯四肢不快、微
 痛ヲ覺ユルノミ、恰_ト癩_ト麻質私症ノ如シ、此症ヲ確
 乎診斷セント欲セハ須ク筋ノ小片ヲ截取シテ、
 顯微鏡的驗查ヲ行ナフ可シ、輒近ハ此蟲ヲ確知
 スルヲ以テ誤診ナシト雖、往古ハ之ヲ誤認シテ、
 恭_テ衰_テ度トセシ、蓋_シ許多ナラン、又此蟲子筋中ニ
 在ル、久シケレハ終ニ死シテ、變脂スルヲ常ト

第六ギニシ蟲

一ニ糸狀蟲ト稱ス、ギニシハ地名
 多ク存スルヲ細長ナル糸狀蟲ニシテ、雌ハ長
 以テ名トス、
 一トルニ至ル者アリ、雄ハ未審ラカナラス、常
 ニ人身ノ皮下結締織中ニ存ス、多クハ唯一條ノ
 ミ、時トシテ數條アレ、雌ノミニシテ、雄ヲ見ス
 故ニ雄モ亦實ニ結締織中ニ在ルカ將、他部ニ在
 ルカ之ヲ確識スル一能ハス、又其蟲子發育ノ法
 夫、詳明ナラス、故ニ雌蟲ニ於テ確知セル諸件ヲ
 爰ニ論述セン、此蟲ハ胎生ニシテ、分娩期ニ至レ

ハ、其部腫脹シ、瘤狀ヲナシテ破潰ス、乃チ蟲澄液
 ト共ニ排泄シ、同時ニ母蟲モ亦其體ノ半ヲ露出
 ス、故ニ之ヲ引キテ、除去スルヲ要ス、然レモ注意
 セサレハ、其體半ハヨリ斷絶シテ死シ、皮下ニ殘
 留シ、近傍部ニ發炎シテ、危險ナルヲアリ、
 尾ヲ引キ出スニ熱味セリ、母蟲ノ出ルヲ見レハ、
 尾ヲ流水ニ浸シテ、自カラ流水ニ從ヒ出ルヲ待
 ツ、但、雌蟲ハ、常ニ皮下結締織中ヲ遊走シ、時アリ
 テ頸部ニ在リ、或ハ足脚ニ至ル、然レモ瘤狀腫ヲ
 發スルハ、特ニ下肢ニ多シトス、

體表動物

第一、アカラス。ホルリキロルム一名コイ長形體ヲ具フル細蟲ニシテ、長ミリ。メートル十分ノニナリ、口ハ吸盤狀ヲナシ、四對ノ小脚ヲ有ス、常ニ皮脂腺、或ハ腠理中ニ在リテ固着ス、特ニ耳中、及鼻側ノ脂腺中ニ多シ、一箇ノ腺中、五箇乃至二十箇ヲ存ス、其兆候ハ、皮脂腺腫脹シテ、炎ヲ發シ、粉刺ヲ生ス。

第二、疥癬蟲。アカラス。スカベールハ、雌雄別アリ、雌蟲ノ成長セル者ハ、長半ミリ。メートルナリ、其形殆楕圓ニシテ、前部ノ横徑、後部ニ過ク頭ハ體ヨ

リ突出シ、上下兩頸アリテロヲナス、六條乃至十條ノ長鬚ヲ生シ、八箇ノ脚ヲ具ス、前、四脚ハ、各端ニ吸盤ヲ有シ、後ノ四脚ハ、吸盤ヲ具ヘス、長毛ヲ生ス、體面數多ノ横線ナリ、整然羅列シテ、波動狀ヲ為ス、背部ニ方リテ、數箇ノ細圓ナル結節アリ、體ノ兩側、後部ニ近キ處ニ四條ノ毛ヲ生ス、後部ニモ亦四條ノ毛アリ、雄蟲ハ、見ルヲ稀ニシテ、多ク雌蟲ヲ見ル、雄蟲ハ、雌蟲ニ比スルニ、其體小二シテ、二箇ノ後脚ニ吸盤ヲ具フ、雌ノ雄ニ會シテ、受胎スルハ、皮膚ノ深部ニ小溝ヲ穿テ、其中

ニ在リテ、毎日一箇ノ卵ヲ生ス、既ニ一卵ヲ生ス
 レハ、之ヲ放置シテ、自カラ進前シテ、又一卵ヲ産
 生シ、茲ヲ進ム、如此ク漸次ニ卵ヲ生スルヲ以テ、
 遂ニ卵溝中ニ滿列シ、母蟲ハ溝ノ末端ニ在リ、其
 溝形ハ、迂曲シテ直線ナラス、長二十六「ミ」リ。メ
 トルヲ常トス、或ハ短クシテ、十三「ミ」リ。メ
 ナルアリ、或ハ長クシテ二十六「ミ」リ。メ
 トルニ過クルアリ、時トシテ腕ヲ周リ、或ハ陰莖
 ハ、種々同シカラス、大抵六箇乃至八箇ヲ常トス
 レ、凡多キハ二十六乃至五十箇ナルアリ、其卵溝

内ニ在ルルハ、黒色ノ粒狀物之ヲ圍擁ス、是、母蟲
 ノ糞塊ナリ、卵ハ指圓形ニシテ、其溝中ニ列シ、母
 蟲ニ遠隔セル卵ハ、生産ノ早キヲ以テ、大ニ發育
 シ、卵中既ニ蟲體ヲ形成ス、夫、人ノ表皮ハ、陳廢ス
 レハ、直ニ剥脫シ去リ、日々ニ新セル深部ヨリ生
 ス、故ニ深部ノ卵溝、逐次ニ淺部ニ出テ、遂ニ表面
 ニ露出シ、子蟲體表ニ出テ、自在ニ遊走スルヲ得
 ルニ至ル、又尋常卵溝ノ長カラサル所以モ亦此
 理ヲ以テ了解ス可シ、是其溝ノ古キ部ハ、陳廢セ
 ル表皮ノ剥脫ニ由リテ、逐次ニ磨滅シ去ルカ為

ナリ、故ニ常ニ石鹼ヲ用ヒテ、屢浴スル人ハ、表皮
 ノ剝脱、多キヲ以テ、此溝ヲ明視スルヲ能ハス、
 如キハ、人々浴スルニシテ、加フルニ土
 温暖ナルヲ以テ、表皮ノ代謝盛ニナリ、故ニ全
 此溝ヲ見ルヲ稀ナリ、和蘭ノ如キハ、浴スルヲ稀
 然明視シ得ル此溝ヲ全シテ、溝ノ表皮上面ニ達
 テ、露出スル期ニ方レハ、溝中ノ卵、全ク成熟シ
 テ、子蟲ニ化ス、此子蟲ト舊蟲トヲ區別スルニ舊
 蟲ハ後脚四個ヲ具フレヒ、子蟲ハ唯、二個アルノ
 ミ、既ニシテ一層ノ外被ヲ脱離シ、化シテ後脚四
 個ヲ全備セル新蟲ト成リ、溝ヲ出テ體ノ表面ニ

遊走シテ、雄蟲ヲ求メ、之ニ會シテ受胎スレハ、又
 溝ヲ穿テテ、卵ヲ生スルヲ母蟲ノ所為ニ異ナラ
 ス、又雌蟲母蟲ハ、常ニ溝端ニ居ヲ占メテ、白色點
 ヲ呈スルカ故ニ明眼ノ人ニ於テハ、肉眼ヲ以テ
 看得可シ、其母蟲居處ノ後部ハ、刺衝ノ為ニ滲世
 液ヲ生シ、腫脹シテ細胞ヲ生ス、故ニ母蟲ハ胞内
 ニ在ルニ非ス、必、細胞ノ前端ニ在リ、往古疥癬
 蟲ニ由ルヲ知ラサル所以ハ、獨胞内ノ液ヲ以テ
 之ヲ驗査スルヲ以テ、蟲ヲ發見スルヲ能ハス、加
 之、此液ヲ取ルニ方リ、若、蟲體ニ觸ルレハ、蟲之ヲ

忌テ遁逃シテ前方ニ進ミ出テ益得可カラズ卵
 溝ハ多ク指間腕部手掌陰莖頭足部等ニ在リ特
 ニ指間ニ多シ是蟲ノ體表ヲ遊走スルニ由リテ
 癢痒ニ堪ヘズ指頭ヲ以テ搔摩シ蟲多ク手指ニ
 集リ軟部ヲ擇ヒテ溝ヲ穿テハナリ此蟲ハ體ノ
 温暖ナル所ハ其働盛ニシテ寒冷ナレハ殆働ヲ
 失ナフ故ニ夜間ハ蟲ノ運動活潑ニシテ頗癢痒
 ヲ覺ヘ既ニ辱ニ就ク所ハ特ニ甚シ晝間ハ運動
 少ナクシテ癢痒ヲ覺ヘズ氣候寒冷ナル所ハ殊
 ニ然リ○此蟲ノ確徴ハ卵溝ト癢痒トニシテ他

ノ諸症ハ盡之ヲ爪破スルニ成ル故ニ或部ヲ搔
 破スレハエキゼマ状ト為リ滲泄物及細胞ヲ生
 シ釀膿シテ遂ニ結痂ス或ハ潰瘍ニ變スルヲア
 リ如此クシテ經久ニ至レハ皮膚銳敏トナリ衣
 被ノ輕擦ニテモ忽エキゼマ状ヲ為スニ至ル如
 此キ不快ノ疾病ヲ誘起スルハ疥癬ニ由ルナリ
 シ和蘭ノ如キハ疥癬ヲ患フル者多クシ
 テ劇甚ナリ是治スルニ少ナキニ由ル
 第三虱 テゲキリハ細小ノ無血蟲ニシテ羽翼
 ナク短吻ヲ具フ體ノ後部ハ横線ヲ以テ九分ニ
 區別ス其人體ニ在ル者三種アリ甲體虱一二衣

虱ト稱ス、灰白色ニシテ、長一ミリ、メイトルヨリ、
四ミリ、メイトルニ至ル、其形細長ニシテ、細毛ヲ
生ス、胸部ハ、狹小ニシテ、三對ノ脚アリ、脚端ニ爪
甲ヲ具ス、常ニ衣被ノ襞間ニ占據シテ、直ニ體面
ニ在ラス、然レモ必、體面ニ直接セル衣被ノ内面
ニ在リテ食ヲ求メンカ為、ニ體表ニ出ツ、其時大
ニ癢痒ヲ覺ユ、其卵ヲ生スルニ方リテ、囊巢ヲ造
リ、其内ニ卵ヲ産出ス、其囊巢ヲ造ルハ、常ニ衣被
ノ纖維ニ在リ、虱ノ人體ニ在ルハ、時アリテ夥シ
ク、其出處ヲ知ラサルニ至ル、多クハ不健康、或ハ

虚弱ノ人ニ於テ、之ヲ視ル、如此キ人ヲ目シテ、帶
虱人ト稱ス、往古ハ如此ク、虱ノ多ク生スルハ、血
液調和不良ニ基因スト謂ヘリ、輒近ニ至リテモ、
英書中、尚此說ヲ主張スレモ、其實ハ然ラス、是、虛
弱ノ人ハ、衣被ヲ十分清潔ニスルヲ能ハサルニ
由ル、或ハ膿腫中ヨリ、虱ノ出ルヲアリテ、皮下ニ
生活スト云フト雖、亦信據スヘカラス、虱ハ、必、體
表ニ在ラサルヘカラス、如何トナレハ、空氣ヲ呼
吸セサレハ、生活スルヲ能ハサルヲ以テナリ、
虱ノ徵候ハ、先、癢痒ヲ覺ヘ、皮脂腺腫脹シ、之ヲ搔

クニ由リテ、尖端剥脱シ、此剥脱ハ通常平行セル長線形ヲ畫ス、是爪頭ヲ以テ搔ケハナリ、如此キ線状ノ剥脱ハ疥癬ニ於テ、嘗テ見サル所ナリ、以テ其差異ヲ判ス可シ
 為ニ刺衝セラレテ、小疹、癢瘡、或ハ膿腫等ヲ發ス、
 加之人々、多クハ續テ皮膚ニ充血スルヲ以テ、皮
 面暗赭色ヲ呈ス、特ニ頸部、背部、下肢等ニ多シ、然
 レモ惟、發疹等ノ諸兆ヲ以テ、虱ノ數多ナル確徵
 トス可カラス、何トナレハ、僅ニ二三個ノ虱ニテ
 モ亦然ルヲアリ、此患尋常貧人ニ多シ、**乙、頭虱**ハ、
 前種ニ比スレハ、小ナリト雖、其狀ハ異ナルヲナ
 シ、其囊巢ヲ造ルハ、之ヲ毛髮ニ附着ス、其蕃殖極

メテ速ニシテ、一箇ノ囊中、許多ノ卵ヲ含ム、其徵
 候モ亦前種ニ齊シク、頭皮刺戟セラレテ、癢痒ヲ
 發シ、之ヲ搔ケハ發疹シ、或ハ「**エキゼ**」狀ヲ為シ、
 滲液漏泄シテ、乾燥スレハ、瘡皮ヲ生シテ、毛髮ヲ
 凝結シ一塊トス、極メテ不潔ノ状態ト為ルトリ、
丙、毛虱ハ、一ニ陰阜虱、或ハ匍匐虱ト云フ、其形甲
 狀ニシテ、横徑、縦徑ニ過ク、四脚ヲ具ヘテ、毛幹ニ
 固着シ、其卵モ亦毛根ニ固着ス、故ニ其毛ヲ抜キ
 去ルニ非レハ、除去スルヲ能ハス、愈、増育スルキ
 ハ、陰阜ヨリ眉毛、鬚髯、其他四肢ノ細毛ニ至ルマ

テ之ヲ視ル然レモ頭髮中ニハ之ヲ見込此虱甚
癢痒ヲ發シ搔ケハ愈刺衝ス甘汞ヲ以テ散布ス
銀膏ヲ用ヒタレモ之カ為ニ反
テエキゼゴヲ發スル患アリ

第四蚤ハ表皮下ニ小圓ナル赤點ヲ生ス特ニ知
覺敏捷ノ人ニ於テハ乳頭腫或ハ蕁麻疹ト云ニ
變ス其他唯大ニ癢痒ヲ覺ユルノミ

體外植物

植物種屬中最下等ノ者ニシテ唯セルノ連續シ
テ糸狀ヲ成シ互ニ羅列スル者ヨリ成ル植物寄
生ノ為ニ發スル疾病ハ諸種アリト雖之ヲ誘起

スル所ノ植物種屬ニ至リテハ盡同一ニシテ各
病ノ類ヲ異ニスルハ其人ノ體質ト例之ハ皮膚
之ヲ生マル部位トニ關シテ然ルナリ
濕潤ノ多少

第一トトリコトトニトシテハ人體ニ頑癬ヲ
生スル寄生ニシテ三種アリ甲皮膚ニ生ス其始
皮膚紅色ヲ呈シ圓形ヲ為シテ少シク隆起ス是
表皮剝脫ノ始點ニシテ漸次ニ増大シ尚圓形ヲ
保ツ暫時ヲ經レハ中心ヨリ治癒シ周圍ハ漸々
蔓延シ由テ環狀ヲ為ス或ハ環狀ノ一部治癒シ
テ半環狀ヲナシ或ハ數箇相連ナルヲアリ多ク

股ト會陰トノ間ニ發ス、漸次ニ蔓延シ、鼠蹊腎部、腰部ニ波及シ、又脚ニ達スルアリ、而シテ尚環ノ一分ノ形狀ヲ保ツ、其他、顔面、頸部、或ハ四肢等、皆患ヘサル所ナシ、此寄生ヲ得ルハ、必直ニ接シテ傳染スルニ由ル、**乙**鬚髯中ニ生シ、上唇、腮等ニ發ス、婦人ニ於テハ、腋下毛中、或ハ陰毛中ニ生ス、其發スルニ方リ、皮膚モ亦之ヲ發スルヲアリ、此種初期ニ在リテハ、皮膚ニ生スル者ト異ナラス、漸々經過スレハ、毛孔ニ入りテ、之ヲ刺衝シ、每孔各一箇ノ瘡ヲ生シ、遂ニ毛際ニ於テ、瘡皮ヲ結合ス、



其前種ト區別スルハ、唯其瘡ヲ生シテ、結痂マルニ由ル、之ヲ根治スルノ法ハ、盡毛ヲ抜キ去ルニ在リ、**丙**頭髮中ニ生ス、是、兒童ニ多シ、發スルハ、毛髮脆弱トナリ、毛孔及毛質纖維間、此種子ヲ以テ充填シ、終ニ毛根破壊シテ、禿髮ト為ル、其禿髮ノ部ハ、圓形ニシテ、大小同シカラス、此蔓延ヲ防ハ、禿髮部ノ周圍ニ、生ヘル毛髮ヲ抜キ去ルノ他、良策ナシ
第二アコリヲシハ、白癬アコリトシテ、生スル寄生ナリ、恐クハ前種ニ齊シキ者ニシテ、唯其名ヲ異ニスルナラン、此病、多ク頭顱ニ發ス、先、瘙痒ヲ覺

三、赤色細圓形ニ隆起シ、半日乃至一日ヲ經レハ、中央ニ黃色點ヲ生ス、之ヲ剝離スレハ、其部稍凹陷シ、赤色至薄ノ表皮ヲ被フル、黃色點逐次ニ增大シテ、其數増加シ、點下ノ表皮ハ、滲泄液ヲ漏出シテ、黃點ト混和シ、痂ヲ結フ、之ヲ蜂蜜狀結痂ト稱ス、之ヲ取リテ顯微鏡的檢査ヲ施スニ、無數ノ微種簇聚シ、或ハ各箇分離散在シ、或ハ續々連環狀ヲナス、此微種、漸次毛根ニ入り、毛根球ヲ破壞シテ、毛髮ヲ枯死セシメ、遂ニ禿頭トナラシム、若蔓延セシメテ、防禦セサレハ、遂ニ痂ヲ以テ、全頭

ヲ被覆シ、毛髮痂ヲ穿チテ生スルニ至ル、皮膚層モ亦之ヲ生スルヲアレレ、極メテ稀ナリ、例之ハ四肢、胸、頸等ニ生スルカ如シ、稀ニ胸部ニ生シ、全胸ニ蔓延スルアリ此痂ハ、一種ノ惡臭アリ、恰モ巢物一坐セル微臭ノ如シ、蓋ガカリユハ頑癬ヲ生スル者ト同シカラシ、如何トナレハ、若シ白癬ノ痂ヲ取リ、他人ノ皮膚ニ接スレハ、其部ニ頑癬ヲ生ス、嬰兒ニ白癬アレハ、其母ノ上膊、兒頭ニ接スルヲ以テ、頑癬ヲ生スルコトアリ、以テ微不可シ、此病ハ、動物ニ觸レテ、傳染スルコトアリ、鼠、兔等ハ、多ク之ニ罹ルリ、因而

シテ兒童ニ多ク大人ニ稀ナリ大人ハ此種子ヲ有スト雖皆枯死スルヲ以テ患害ヲ起サス兒童ハ童虛弱兒ノミナラス健兒モ亦多ク之ヲ發ス故ニ此病ハ身體ノ景况ニ基源スルニ非ス必種子アリテ發ス此症英國ニハ少ナケレモ皇國普關涉スル極メテ頑固ノ症ニシテ治シ難シ故ニ亦毛髮ヲ抜キ去ルノ他良策ナシ

第三癩風トトリヲシス名ルシコラハ亦同種ノ寄生ニ由ル其始メ小點ヲ發シ漸次ニ周圍ニ蔓延シ不整形ノ斑ヲナス蔓延甚シケレハ斑ヲ

以テ腹腰ヲ被覆スルニ至ル斑面多クハ茶褐色ヲ呈ス時トシテ黒色ナルヲアリ而シテ斑面ノ表皮稍剥脫ス爪ヲ以テ輕々ニ搔ケハ皮片剥離ス此剥片ヲ取り顯微鏡ヲ以テ照看スレハ黴種ヲ含ムヲ視ル此種子ヲ小種即チイコロスポロシ。ホルホルト云フ亦直接シテ傳染ス初期ノ徵候ハ唯癢痒ヲ覺エ皮膚稍黒色ヲ帶フルノミ其狀大ニ煤毒性ニ疑似セルヲ以テ須ラク確識シテ區別ス可シ又黴種ノ爪甲層間ニ發生スルアリ爪甲脆弱トナリ層々分裂シ易キニ至ル恐

原典通論 卷之三 三十九 三友舎

クハ毛質纖維間ニ生スル寄生ト同種ナル可シ
體內植物

第一、オイデオムアルビカンスハ長形セルノ圓
柱狀ノ鏈續ニシテ灰白色ノ小圓點ヲ形成ス所
謂驚口瘡是ナリ此小點漸次ニ増大會合シ終ニ
局部ニ彌蔓スルニ至ル若灰白物ヲ剝離スレハ
其下ニ潰瘍アリ驚口瘡ハ特ニ口蓋舌頰ノ粘膜
ニ生シ小兒及衰憊セル人例之ハ肺結核ノ患者
及泰斐度後ノ人ニ多シ而シテ常ニ消化機能ノ
障害ヲ兼得ス又稀ニ咽頭胃管氣管肺等ニ之ヲ

見ル此種子ハ通常空氣中ニ浮遊セル黴種ニ他
ナラス若粘膜不健康ノ人之ヲ吸入スル片ハ種
子局部ニ沈着シ以テ播殖スルニ到ル人工哺乳
ニシテ黴種ノ附着
ニ起因スルヲ多シ
第二、カリシノダシトリキヒハ一「リノトト
千分ノ四ノ大ノ立方形セルニシテ無數相聚合
シ整然タル立方形ノ大塊ヲ成ス特ニ胃中ニ生
シ不消化病ノ吐出液中ニ屢之ヲ見ル又尿中ニ
見ルコトアリ

第三、マデラノトト病モ亦體內植物性寄生ニシ

原典通論 卷之三 三十九 三友舎

テ、脚骨ノ内部ニ發生ス、此ヨリ腐骨疽ヲ生シ、誓
 久釀膿ヲ將來シ、其人逐次ニ衰憊シテ、遂ニ斃ル、
 凡テ潰瘍或ハ壞疽狀ノ疵、若ハ瘡面ヲ具フル各
 種ノ疾病ニ在リテハ、患部ニ植物性寄生ヲ發ス、
 而シテ許多ノ疵、腐敗性ニ傾クハ、恐クハ黴種ノ
 存スルニ由ルナラシ、故ニ患處ヲ被覆シテ、外氣
 ニ觸レシメサルキハ、黴種ノ傳着ヲ避ケテ、惡性
 化膿ヲ防禦ス可シ、由ラサルハ、植物性寄生ニ
 爾ノ酸酵素モ亦、植又腐敗性氣管枝炎ニテ、腐敗
 物性ナルカ如シ、又腐敗性氣管枝炎ニテ、腐敗
 臭ノ痰ヲ各出スルキハ、痰中無數ノ寄生物ヲ見

ルコアリ、之ト同シク、壞疽部モ亦寄生ノ居所ト
 ナル、惡性馬病水脈及水脈腺ノ腫脹、炎、潰瘍等ヲ
 生シ、傳染スル一種ノ毒ナリ、其始、馬ノ鼻腔粘膜ニ
 生シ、馬ノ噴嚏等、人ノ面部、或ハ上肢等ニ疵
 ヲリ、此寄生ヲ傳播ス、ニ於テハ、黴種ノ血中ニ發
 生スルコト極メテ速ニシテ、血液ヲ分解シ、多クハ
 死ス、其他膿毒、惡膿毒、間歇熱等ニ在リテモ亦血
 中ニ之ヲ含ミ、或ハ虎列刺ノ泄瀉物中ニモ亦之
 アルヲ見ル、如此キ疾病ハ、皆黴種ノ、其病因トナ
 ルカ、或ハ其病ニ偶黴種ノ存スルカ、知ル可カラ
 ス、例之ハ、虎列刺ニ於テ、黴種ヲ見ルモ、黴種ノ實

ニ虎列刺ヲ誘發スルカ、之ヲ確定シ難シ、然レモ
恐クハ、黴種、其因ナル可シ、他ノ動物ニ於テ、證ス
ヘキコアリ、一例ヲ舉クレハ、蠶、蠅等ノ一般ニ死
スルコアリ、是植物性寄生ニ起因スルコ疑ヲ容
レス、

以下一種外來ノ毒ニ觸レテ、人體ニ發スル諸病
ヲ論シ、以テ原因論ヲ結フ、

外襲病毒論

外來ノ毒ニ二種アリ、蓋其毒ノ原因、同種ノ病ニ
感染セル人ヨリ得ルルハ、之ヲ**傳染病**ト名ツケ

土地、大氣或ハ水ヨリ得テ、他ノ病者ニ觸接シ、感
染スルニ非レハ、之ヲ**泥沼性病**ト名ツケ、其毒ヲ
泥沼毒ト名ツク、例之ハ、間歇熱ハ、傳染病ニ非ス
シテ、泥沼性病ナリ、之ニ反シテ梅毒ハ、泥沼性病
ニ非スシテ、傳染病ナリ、故ニ此二種、確乎ナル區
別アリ、其他、痘、瘡、麻疹、猩紅熱、實布の利亞咽喉粘膜炎ヲ發シ、
化膿シテ速ニ黒色ニ變シ、壞疽狀ト為ル、等、悉、傳染病ニ屬ス、又一種
ノ毒ニ由リテ發スレバ、傳染病カ、或ハ泥沼性病
カ、決定シ難キ疾病アリ、恐クハ二性共ニ之ヲ具
フルナラン、故ニ之ヲ**泥沼性傳染毒**ト名ツク、其

毒他ノ病者ニ觸レテ來ルヲアリ、又土地、水ヨリ受クルヲアレハナリ、例之ハ虎列刺ノ如シ、其流行時ニ方リテ、瞭然他人ヨリ、傳染セサルヲアリ、貴婦人ノ如キ常ニ深閨ニ在リテ、他人ニ觸接セスシテ、之ヲ受クルハ、土地、水等ヨリ來ル者トス、或ハ一家族中ニ一人之ヲ患ヒテ、他人之ヲ患フルハ、傳染ニ由ルヲ疑フ容レス、故ニ傳染性ト泥沼性トアリ、然ルルハ、之ヲ傳染病、又泥沼性病ト稱ス、室技斯、發黃熱、病院壞疽、痢疾等モ亦同シ、各異ノ毒物ハ、不分明ニシテ、化學家モ猶未之ヲ分

抵發明スルヲ能ハス、然レモ如此キ毒ヲ含有セル物ニ至リテハ、能ク知り得ル所ニシテ、之ヲ^{ヒク}ヒク^{毒物ヲ運輸}スル物ノ義ト云フ例之ハ、梅毒、痘瘡等ニ於テハ、其膿即、毒ヲ含有セル物ナリ、又麻疹ニ於テハ、粘膜ヨリ分泌セル加答爾性ノ液中ニ毒ヲ含ノリ、是試驗ニ由リテ、知り得ル所ナリ、若シニ^カカ^{種接スレハ}種接スレハ、直ニ感染ス、例之ハ、麻疹ヲ患フル兒ノ鼻涕ヲ他兒ノ鼻中ニ容ルレハ、之ヲ感染スルカ如シ、^シシ^トト^{劇熱}ト^{劇寒}ト^諸諸^ノノ^{要務}要務ナリ、^{劇熱}劇熱、^{劇寒}劇寒、^諸諸

原病學通論 卷之三 三十一

種化學的品コロリ、昇頂、亞、及有機性物規尼、フ、濕、加、里、鑛、屬、諸、酸、要ス、例之ハ、空扶斯患者ニ於テ、病室中ニコロリ
 ル瓦斯ヲ遊離セシメ、床蓐、衣被、便處等、悉之ヲ以
 テ洗滌シテ、傳染ヲ豫防スルカ如シ、總テ有機性
 物ヲ分解スル諸品ハ、傳染毒及、泥沼毒ヲ撲滅ス、
 例之ハ、醱酵素ヲコロリル瓦斯ト觸ルシムルハ、
 其セル分解スルカ如シ、故ニ醱酵素溶水一滴ニ、
 コロリル溶水ヲ混シ、顯微鏡ヲ以テ看レハ、通常
 見ル所ノ球形物ヲ見ス、其他、規尼、昇頂等ヲ和
 スルモ亦同シ、唯、昇頂ハ、其力強キノ、三、傳染毒、泥

名毒ハ、共ニ其因有機性毒ナル可シ、甲ハ、未十全
 詳明ノ地位ニ至ラサレド、乙ニ在リテハ、極下等
 植物性黴種ナルヲ疑フ容レサル所ナリ、

病毒ノ侵襲法

或毒物ハ、近隣ヲ侵シ、或者ハ、遠隔ヲ襲フ、若、空、ヒ
 クルノ、液體ナルカ、或ハ、固體ナルカ、唯、近傍ヲ
 侵シ、之ニ反シテ、氣體ナルカ、ハ、能ク、遠隔ヲ襲フ
 論ヲ俟タス、例之ハ、梅毒ノ膿ハ、液體ナルヲ以
 テ、隔遠ニ運輸セラル、フ、ナ、シ、猩、紅、熱、ノ、表、皮、鱗
 屑狀ヲ為シテ、剥脫セル者モ亦然リ、痘瘡ノ如キ

ハ、毒物氣態ト為リテ、患者ノ蒸發氣中ニ混スルヲ以テ、能ク遠隔ニ向ヒテ侵襲ス、例之ハ病院内ニ痘瘡ノ患者アレハ、之ヲ他室ト隔絶セシムルモ、尚傳染スルカ如シ、麻疹、虎列刺ノ如キモ亦同シク患者ノ蒸發氣中ニ揮發性ノ毒ヲ混ス、而シテ揮發物ハ、啻ニ隔遠ノミナラス、近接ニモ亦能ク傳染ス、例之ハ衣被、床蓐等ヨリ之ヲ受クルカ如シ、又醫士ノ衣服ニ附着シテ、他人ニ傳染スルコトアリ、痘瘡、麻疹等殊ニ然リ之ヲ避クルニ、總テ傳染性ノ患者ハ、他ノ患者ヲ廻診シテ後診察スルヲ要ス、

是、最良ノ法ナリ、膿毒、毒熱等モ亦醫ノ運輸ニ由ルコトアリ、多クハ醫士ノ手指或ハ器械等ニ附着ス、故ニコロール水、或ハ過滿侷酸、剝篤亞私水ヲ以テ、能ク之ヲ洗滌ス可シ、過滿侷酸、剝篤亞私ハ、一和量ノ酸素ヲ遊離シ、滿侷酸、剝篤亞私ト為リ、遊離ノ酸素ハ有機物ト結合シテ、之ヲ酸化セシム、其他種々ノ品類、能ク毒物ヲ運輸ス、而シテ或毒ハ長ク其機ヲ保全シ、或者ハ之ヲ保全スルコト短シ、例之ハ間歇熱ノ毒物ハ、其毒性ヲ失ナリ、速ナリ、故ニ卑濕ノ一地方ニ在リテ流行スルヲモ、其近隣ノ乾燥地方ニハ、之ヲキカ如ク、又風ノ

為ニ輸送セラル、一アルモ、少許ノ距離ニシテ止ミ、曾テ隔遠ノ地ニ到ラス、之ニ反シテ、牛痘種ノ如キハ、長ク毒性ヲ保チ、若シ空氣ニ侵サレサル片ハ、數年間能ク其性ヲ保續ス、故ニ密閉管中ニ貯ヘテ、他邦ニ輸送シ得可シ、此毒ノ人體ヲ侵スハ、必、粘膜、皮膚或ハ肺ヨリ入ル、而シテ其皮膚ヨリ入ルハ、必、傷害アル部ノミニシテ、健康ノ皮膚ヲ侵ス_一ナシ、故ニ牛痘ヲ種ユルニハ、皮下ニ種接セサル可カラズ、天然痘ト雖、亦然リ、牛痘ノ發症ノ天然痘種接セリ梅毒モ亦同シク、唯、其膿ヲ皮膚ニ著

クルモ感染スル_一ナク、必、疵アル部ニ感染ス、之ニ反シテ、粘膜ハ、疵ナキ部ト雖、亦能ク侵入ス、例之ハ、淋疾ノ膿ヲ取リテ、眼ノ結膜ニ接スレハ、急性ノ結膜炎ヲ發スルカ如シ、兵亂ノ際ニ卒伍ヲ忌ミテ、淋ノ膿ヲ眼ニ接シ、眼炎ニ編入セラル、ヲ以テ之ヲ避クル_一往々之_一リ、肺ヨリ侵襲スルハ、患者ノ體、大便或ハ衣被ヨリ、蒸散スル揮發物ニシテ、猩紅熱、麻疹、炭疽土熱等皆然リ、固性毒物ノ作用ハ、其量ノ多少ニ拘ハラズ、奇ト謂フ可シ、例之ハ、牛痘種ノ如キハ、利斯林ヲ以テ、之ヲ稀薄トナシ用ヒルモ、醇膿品ヲ用ヒルモ異ナラス

若水ヲ以テ稀薄トナスハ、痘瘡、梅毒、淋疾、下疳、
 其力減少シテ、此例ニ非ス、
 等、皆之ト同シク、其量ノ多少ニ關スルハ、然
 レハ揮發性ノ毒ニ至リテハ、量ノ多寡ニ應シテ、
 其機能ニ強弱アリ、故ニ若患者ヲ一室ニ閉居セ
 シムレハ室内ノ毒、逐次ニ稠厚トナリ、其機從ヒ
 テ、強劇トナルヲ、恰雙凸連私ヲ以テ、光線ヲ聚ム
 ルカ如シ、痘瘡、黍、黍、土、熱、虎、列、刺、等、皆然リ、例之ハ
 船中ニ在リテ、此等ノ病流行シ、或ハ寤室、或ハ病
 院中ニ久シク患者ヲ居クキハ、其毒他人ヲ侵ス
 下甚、強烈トナル、如此キ室ハ、則、連私ノ、燒點ナリ、

病院壞疽ニ於テモ亦然リ、○病ノ他人ニ感染ス
 ヘキ時期ハ、未十分詳明ナラズ、牛痘ニ在リテハ、
 第六日乃至第九日ノ間ニ、其機最盛ナリ、虎列刺
 痢疾、黍、黍、土、等ノ如キハ、下痢劇甚ノ時ニ在リ、麻
 疹ハ、初期鼻粘膜加多、爾ヲ發シ、鼻涕ヲ流スルニ
 強シ、此時期ニ最能ク傳染ス、然レハ此等ノ毒ニ
 觸レテ、悉發スル者ニ非ス、看護者ノ如キ、日夜看
 侍スルモ、遂ニ傳染セサルヲアルカ如シ、是體ニ
 素因ナキニ由ルナリ、或ハ同時ニ感スルモ、一人
 ハ素因ノ發生劇シクシテ、一人ハ輕シ、例之ハ痘

瘡ニ罹リテ一人ハ極メテ輕ク一人ハ死スルカ
 如シ又虎列刺ニ在リテマ一人之ヲ患ヒ極メテ
 輕症ニシテ唯下利シ動作常ノ如クナレモ之ヨ
 リ傳染セシ者ハ極メテ劇烈ニシテ吐瀉併發ス
 ルアルカ如シ此等ノ諸病ハ一回之ヲ患フレ
 ハ其素因消失ス其間或ハ短ク或ハ長ク或ハ終
 身之ヲ失フアリ例之ハ麻疹ノ如キ小兒ノ一
 般患フル者ニシテ再感スル者極メテ稀ナリ虎
 列刺、瘰癧、土熱等モ亦然リ痘瘡ハ一回之ニ罹レ
 ハ素因ノ消失スルヲ必十年間ニ及フ故ニ種痘

ハ七年或ハ十年毎ニ再種ヲ要ス然レモ多クハ
 一回ニシテ再感スルヲナシ梅毒モ亦同シ真ノ
 梅毒ハ唯一回ニシテ素因ヲ失ス更ニ之ヲ患フ
 ルモ輕症ノ下疳ノ如シ所謂素因ハ何物ナリヤ明
 ラカナラサレモ其存在ハ確然證シ得ル所ナリ
 又二三ノ毒同時ニ人體ヲ侵スアリ例之ハ牛
 痘ト麻疹、猩紅熱ト麻疹、瘰癧ト虎列刺、牛痘ト
 天然痘ノ如シ而シテ之ニ梅毒ヲ合併スルハ
 三症ノ合併ナリ
 九毒ノ為ニ侵サレハ其始直ニ異常ヲ顯ハサ

又故ニ此期ヲ確定シ難シ、又時トシテ嘔吐戰慄
 ヲ發シ來ルヲアレバ如此キ諸症ヲ發セザルコ
 常トス、既ニ感染シテ後、尚少シモ症候ヲ顯ハサ
 ヲル時アリ、之ヲ潛匿レシキヘ一ノ時期ト稱ス、
 即受毒期ト發症其長短ハ、疾病ノ異ナルニ從ヒ、
 期トノ間ナリ、各差アリ、即痘瘡ハ、此期九日ヨリ十二日ニ至ル、
 麻疹モ亦同シ、虎列刺ニ在リテハ尋常二日ナレ
 氏、或ハ延テ三週ニ至ルコトアリ、全身梅毒ハ、三週
 乃至七週ニ及リ、軟性疳瘡ニ於テハ、三日ヲ常ト
 ス、淋疾ハ、始テ患スル所ハ、九日ナレバ、再發ニ在

リテハ三日許ナリ、此時期ハ、毒ヲ種接セル病ニ
 於テ瞭然タリ、而シテ毒ヲ種接スルニハ、其望ヒ
 クルノ流態若クハ固態ナルキノミニシテ、氣態ナ
 レハ、之ヲ施ス下能ハザルハ、論ヲ俟タス、種接法
 ハ、其目的、疾病ヲ防禦シ、或ハ試驗ニ供ス、例之ハ
 牛痘ヲ種接シテ、重症ノ天然痘ヲ預防シ、又疳瘡
 毒ヲ種接シテ、其二種アルヲ發見ス、即一ハ軟性
 疳瘡毒ニシテ、身體ノ健康ナルカ將、既ニ梅毒ニ
 感染セルカヲ問ハス、其ニ之ヲ種接シ得可シ種
 接後、二日ヲ經レハ、新ニ疳瘡ヲ發ク、而シテ全身

梅毒ニ變スルナシ、唯續發スルハ近傍水脈腺
 ノ腫脹、ミニシテ、他腺ニ波及セス、一例ヲ舉
 レハ、上膊ニ之ヲ種ユレハ、腋下腺腫脹スルモ、他
 部ニ波及セサルカ如シ、其他一ハ真ノ梅毒ニシ
 テ、硬性疔瘡毒是ナリ、唯、健康體ノミ、種接シ得可
 シ、既ニ之ヲ患フル體ニ在リテハ、種接スルヲ能
 ハス、健體ニ之ヲ種接スルハ、三週乃至六週ヲ
 經テ、始メテ全身梅毒トナリ、全體ニ發疹シ、水脈
 腺盡腫脹ス、又健體ニ在リテ、此硬軟二性ノ毒ヲ
 同時同部ニ種接スルハ、三日ノ後、先軟性ノ瘡

ヲ發シ、三週乃至六週ノ後、始メテ硬性ノ瘡ヲ發
 ス、○二種ノ異毒ヲ以テ、同時同部ニ種接シ得可
 シ、例之ハ牛痘ト、梅毒トノ如シ、若梅毒ニ罹レル
 兒ノ痘種ヲ取リテ、他ノ健兒ニ種接スレハ、先痘
 毒ヲ生シ、後又梅毒ヲ發スルアリ、故ニ痘種ヲ
 シテ豫驗査ヲナシ、發疹ナキ兒ヲ擇フ可シ、又
 ニ用ユル器械ヲ洗滌スルハ、即痘瘡ハ直ニ牛痘
 之ヲ直ニ他ノ動物ヨリ取ル、即痘瘡ハ直ニ牛痘
 ヲ取ル、漸次ニ人々相傳フ、雖若直ニ牛痘ヨリ
 シテ、漸次ニ人々相傳フ、雖若直ニ牛痘ヨリ取
 性ヲ失シテ、人々相傳フ、雖若直ニ牛痘ヨリ取
 シ得可キ者ハ、麻疹、淋疾、百私多、疫ナリ、是其
 クル、氣態ニ非レハナリ、

九テ傳染毒、泥沼毒、共ニ時アリテ散在シ、一二人
 之ニ罹ルコトアリ、又時アリテ、一般ニ流行シ、同地
 ノ人多ク同時ニ之ヲ患フルコトアリ、甲ハ之ヲ散
 在病「スボラヂカ」ト稱シ、乙ハ之ヲ流行病「エピ
 デミカ此ト稱ス、又病ノ全國ニ盡蔓延シテ、行ハ
 ルコトアリ、之ヲ天行病「パンデミカ」ト稱ス、或
 ハ一地方ニ於テ、同病ノ屢流行スルコトアリ、之ノ
 地方病「ロンドンデミカ」ト稱ス、例之ハ間歇熱ハ流
 行性ト稱シ、難ク、地方性ト云ハサル可カラズ、如
 何トナレハ、同地ニ在リテ、年々定期ヲ以テ、反復

流行スルハ、ナリ、又瘧疾、土痘瘡、虎列刺ノ如キハ、
 流行病ニシニ、流行スル片ハ、衆人皆之ヲ患フレ
 疋屢、反復セス、必、久時ヲ隔テ、再行ハル、昔ト
 リ、和蘭ニテ、千八百三十年ニ、虎列刺大ニ流行シ、
 後四十七年ニ再行ハレ、又六十六年ニ流行シ、
 シカ、殊ニ痘瘡、瘧疾上ハ、屢散在性ナルコトアリ、虎
 列刺モ亦時アリテ、散在性ナルコトアリ、然ル片ハ
 之ヲ虎列刺「虎列刺」ト稱ス、惟稱呼ノ異ナルノ
 列刺ト少シモ、
 異ナルコトナシ、

病原學通論卷之三

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

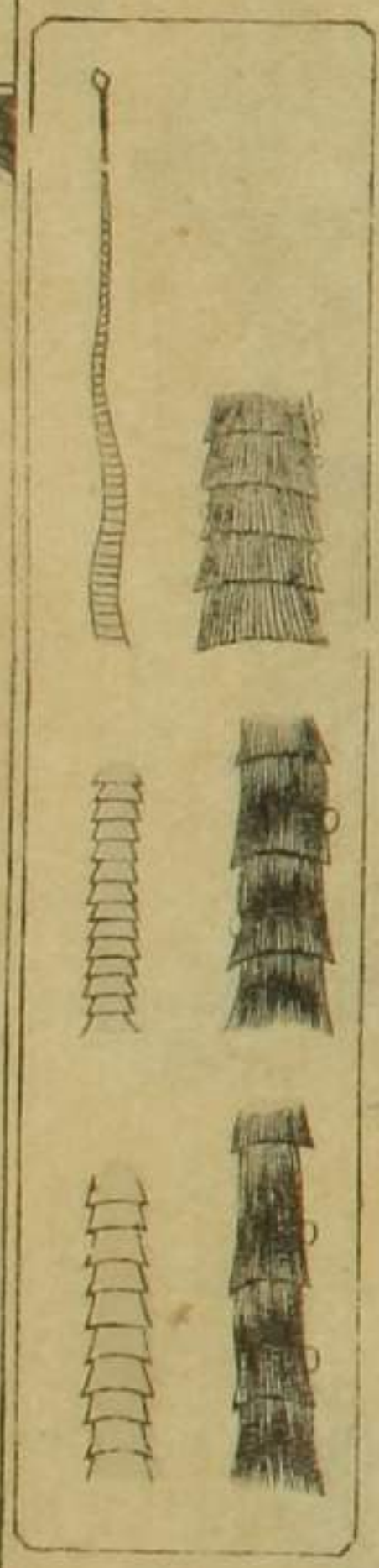
甲 テニヤソリユム
繚蟲ノ頭部及ヒ鉤



丙
片々關節ノ狀チ



乙
繚蟲自然ノ大サヲ示ス



甲 繚蟲ノ一片

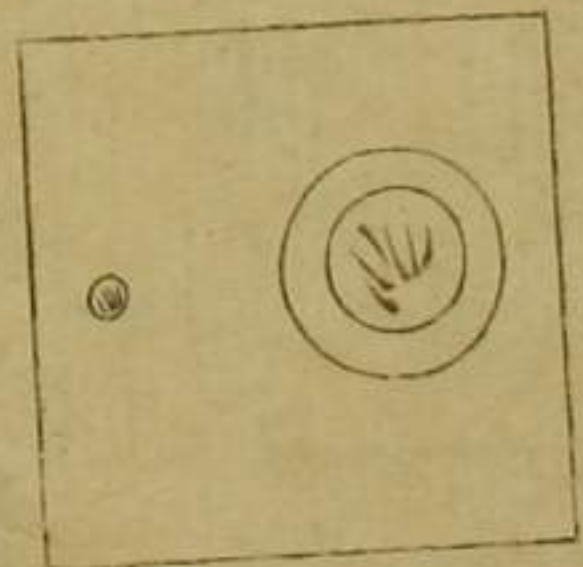


乙 生殖器ヲ増大シテ見ルモノ



丙

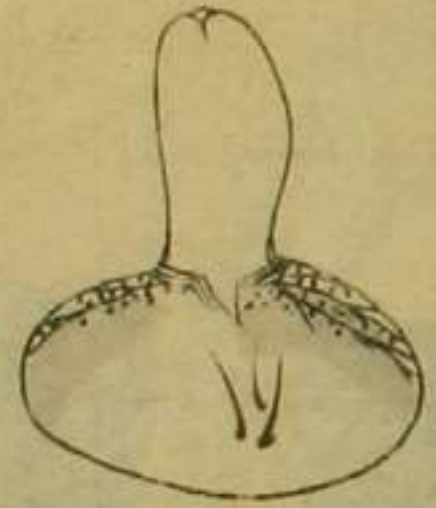
繚蟲ノ直立ノ細針ヲ具フ



丙

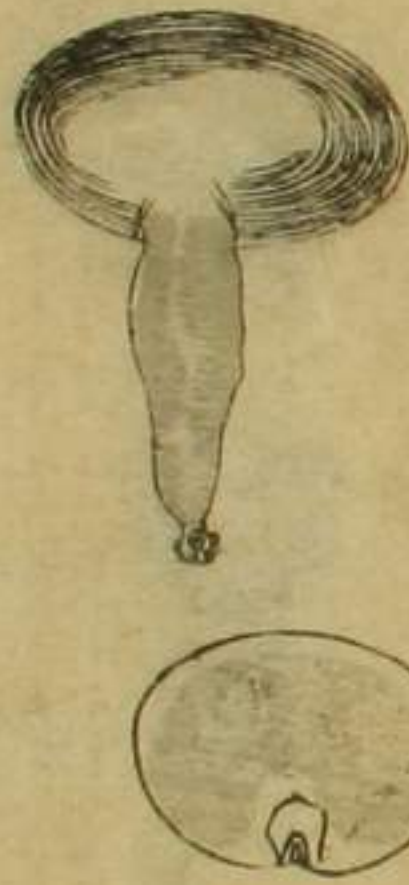
丁

繚蟲ノ「スコレス」頭部ヲ包囊ヨリ半ハ伸出スルヲ示ス



巳

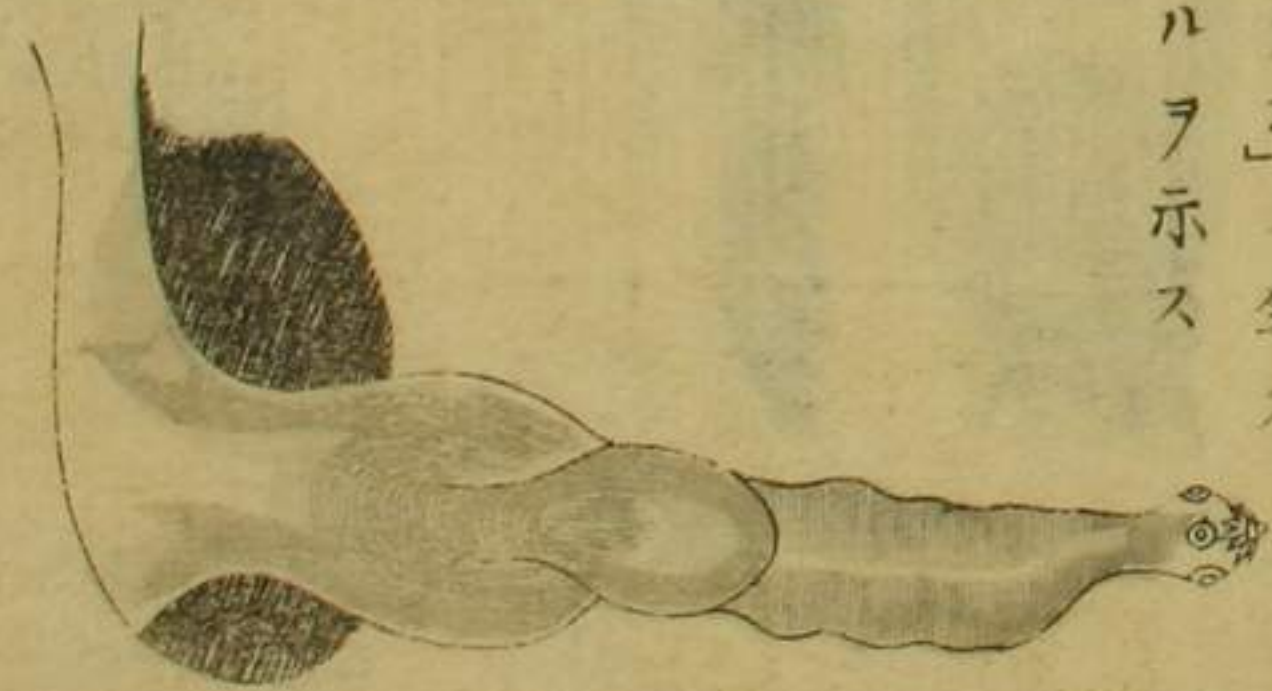
「スコレス」ノ伸縮ニ態ヲ示ス



戊

「スコレス」ノ全ク伸出スルヲ示ス

戊



原為子通命

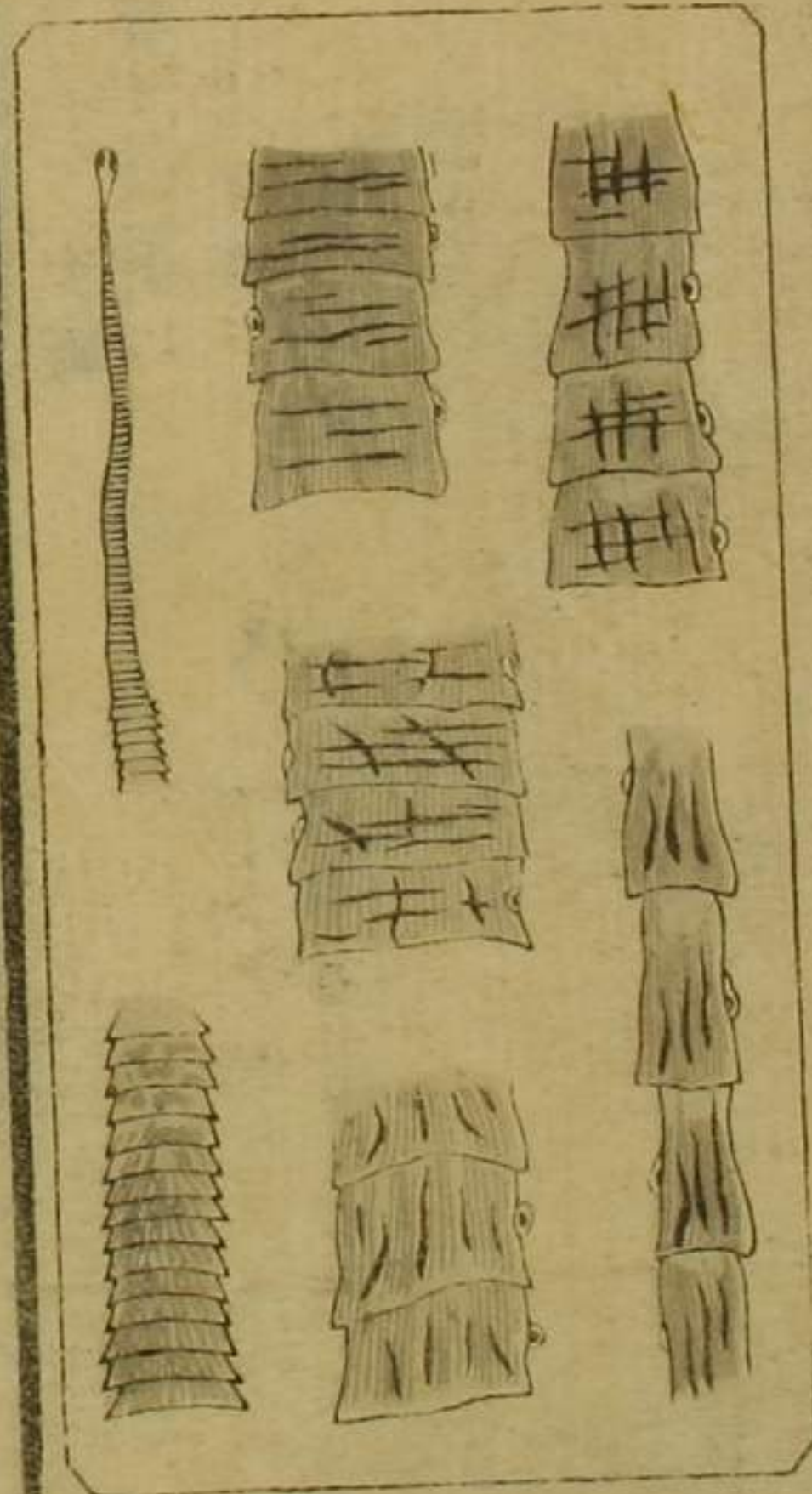
圖

二

甲 乙 ハ 無鈎絲蟲ノ頭部及ヒ卵



丙 無鈎絲蟲自然ノ大サヲ示ス



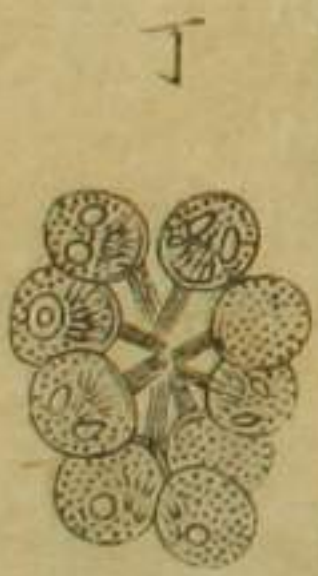
甲 乙 テニヤ、エキノコックスノ全体ヲ示ス



乙 丙 テニヤ、エキノコックスニシテ其頭一ハ包囊ノ外方一ハ内方ニ發育ス



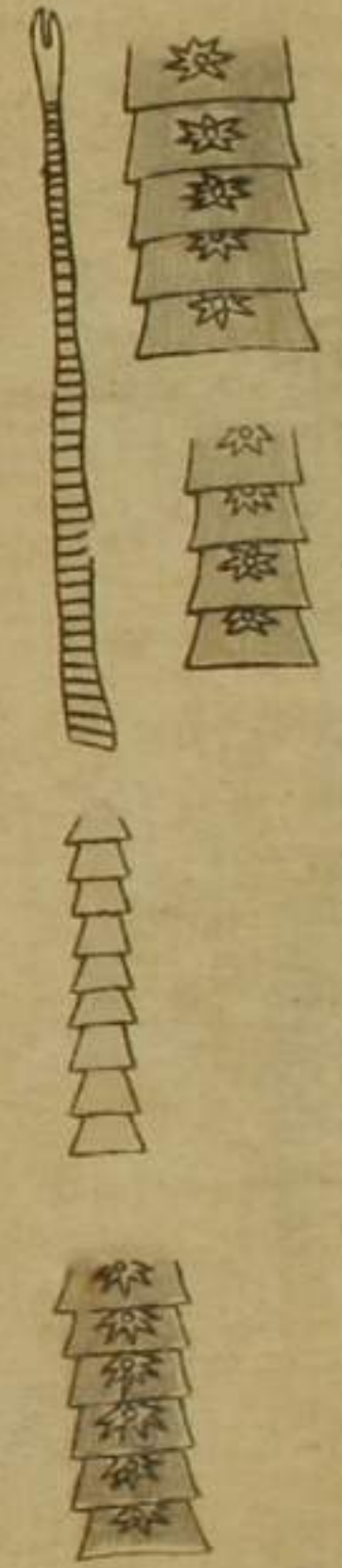
丁 數頭群集シテ發生ス



戊 鈎ノ見ルミ



甲 裂頭蠶ノ体

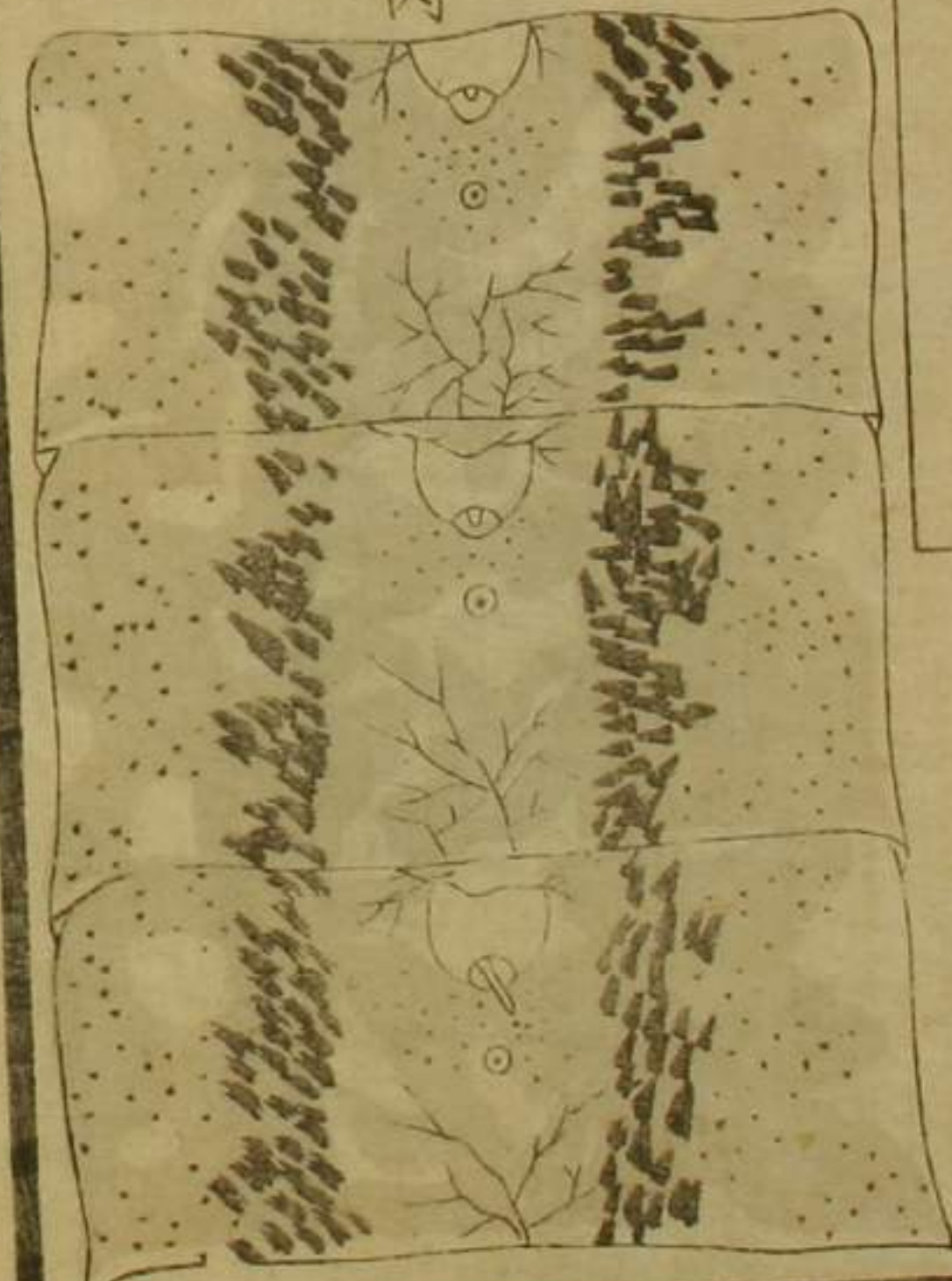


裂頭蠶ノ片々其中
央部三孔アリハ前面ニ
在テ雄性生殖器ナリハ
後面ニ在テ雌性生殖器
ナリ是レ片々ノ實質
ヲ透見スル圖ナリ

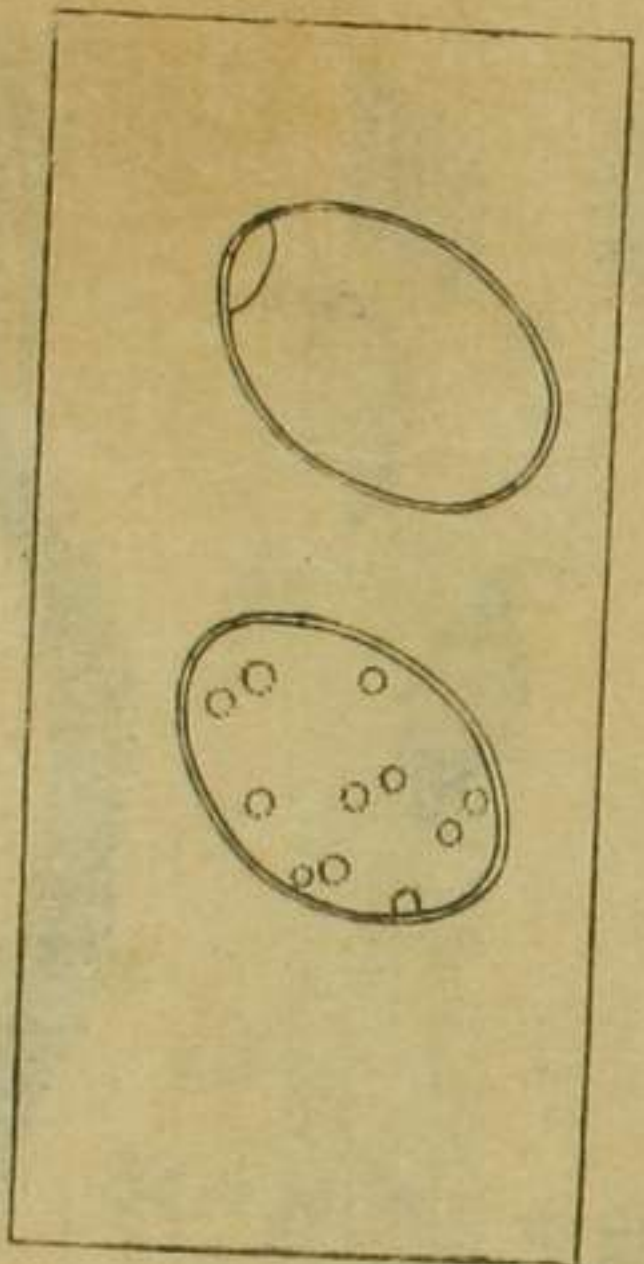
乙 頭部ニ裂溝アリテ
吸盤ノ用ニ備フ



丙



丁 裂頭蠶ノ卵外殼ニ蓋ヲ具フ



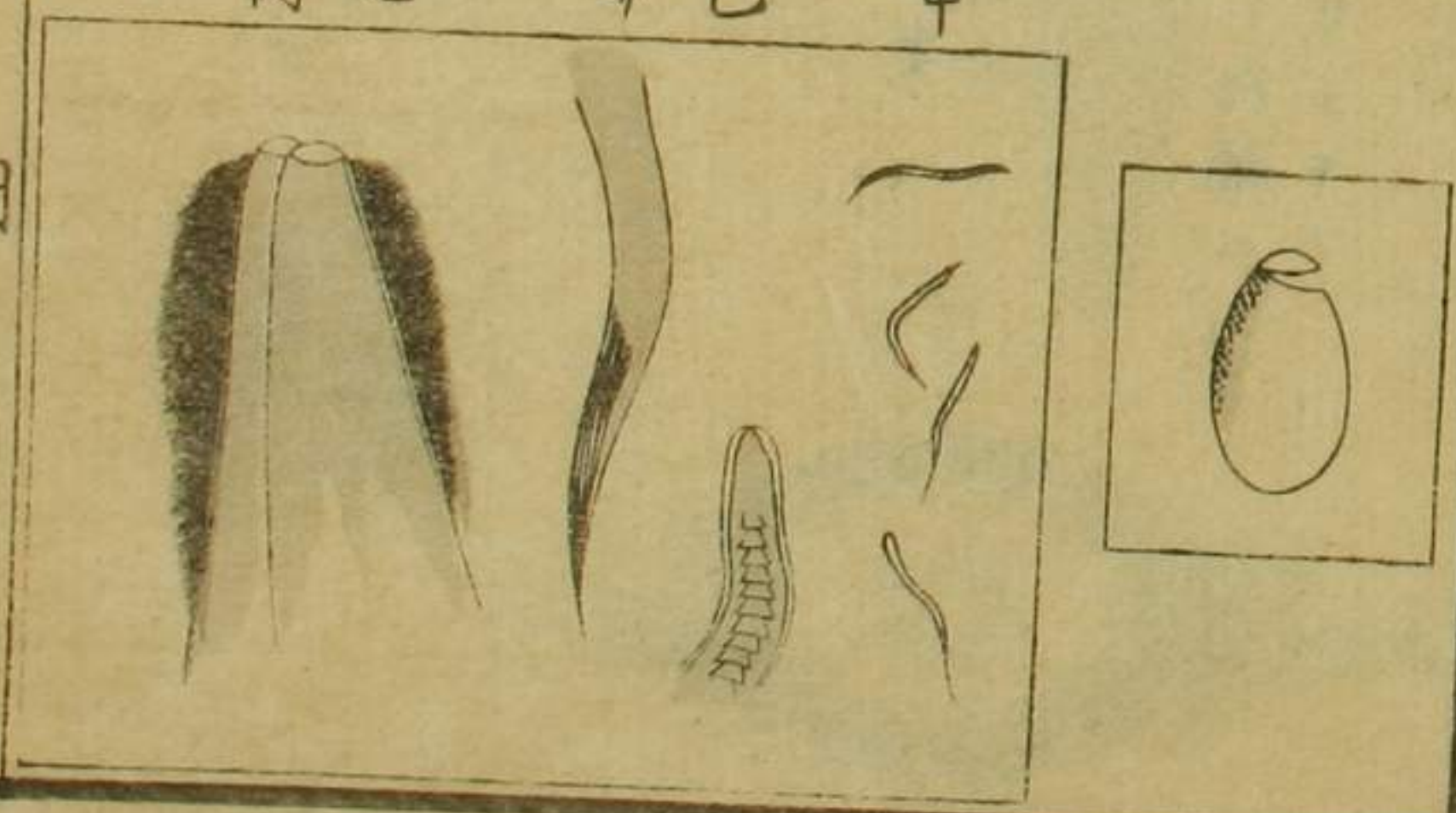
甲 蠶頭部ニ三箇
ルノ結節アルヲ見



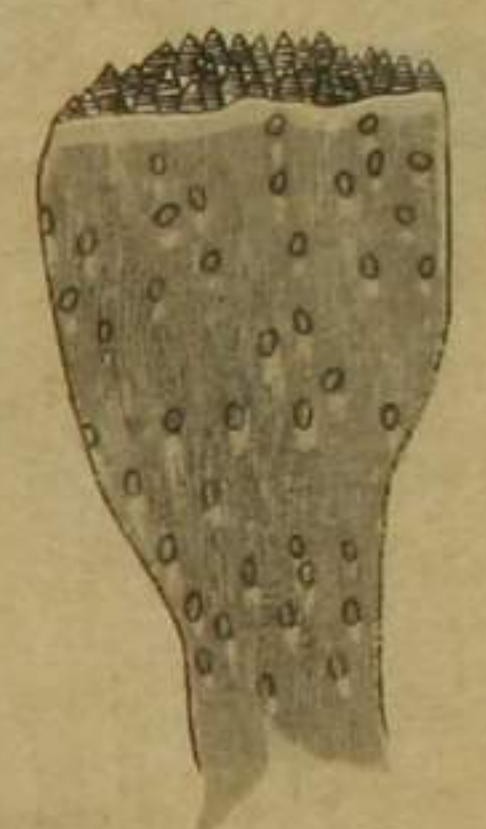
甲 蠶自然ノ大サ

乙 蠶ノ頭尾ヲ見

丙 頭部ヲ増大シテ
見ルモノ



甲 トリキナスピラーリス
螺旋蟲ノ包數箇ヲ
筋中ニ見ル

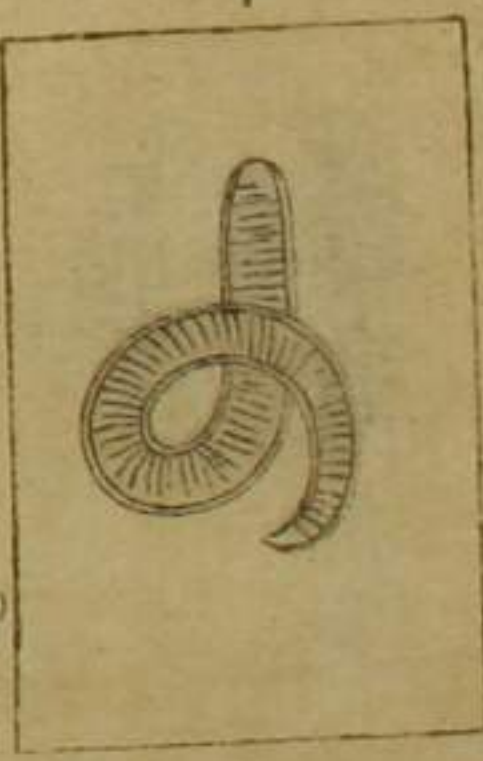
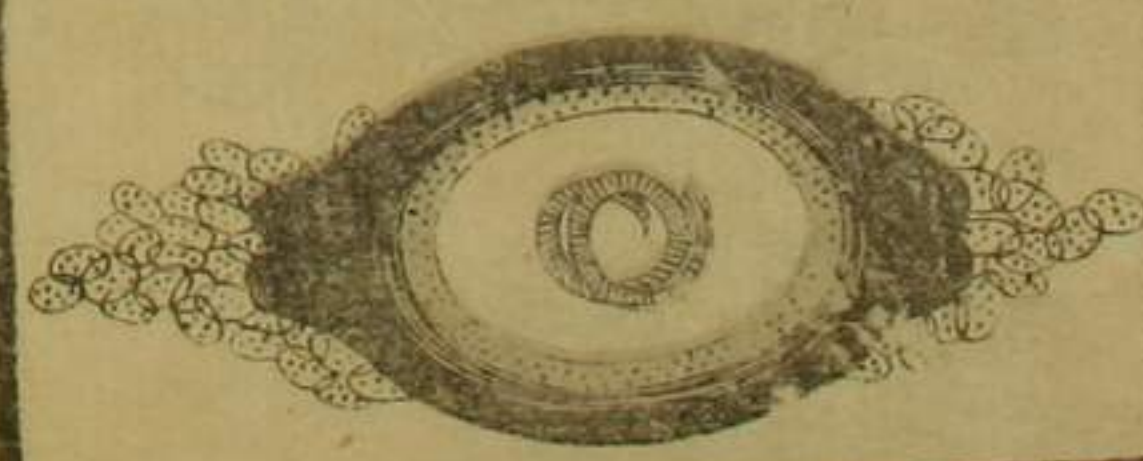


丙 螺旋蟲
ノ全体



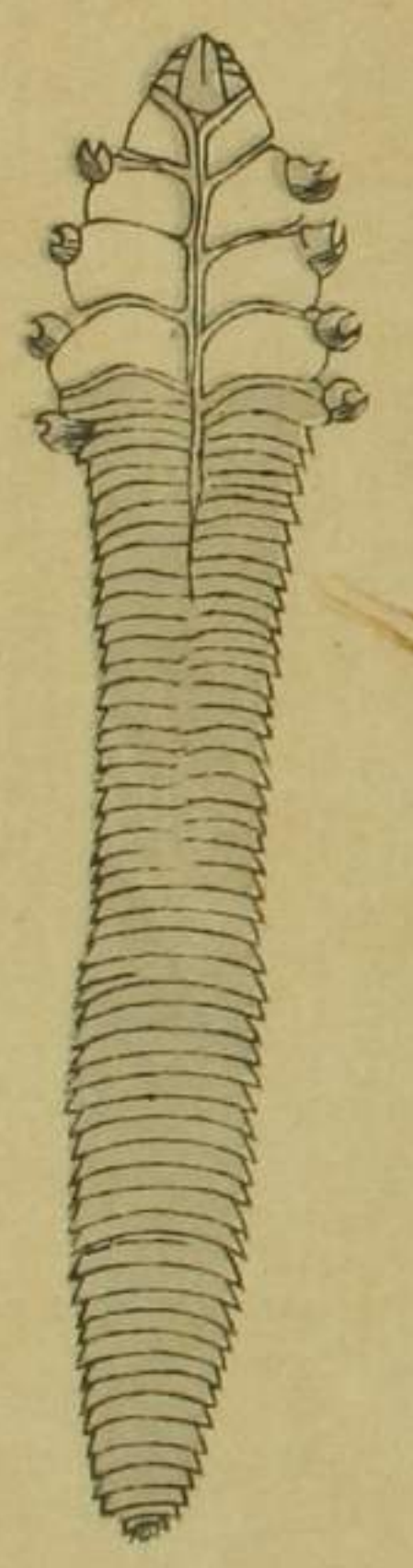
乙 同上ヲ更
ニ増大シ
テ見ルモ

丁 包囊ノ両端ニ
脂變セシモノ

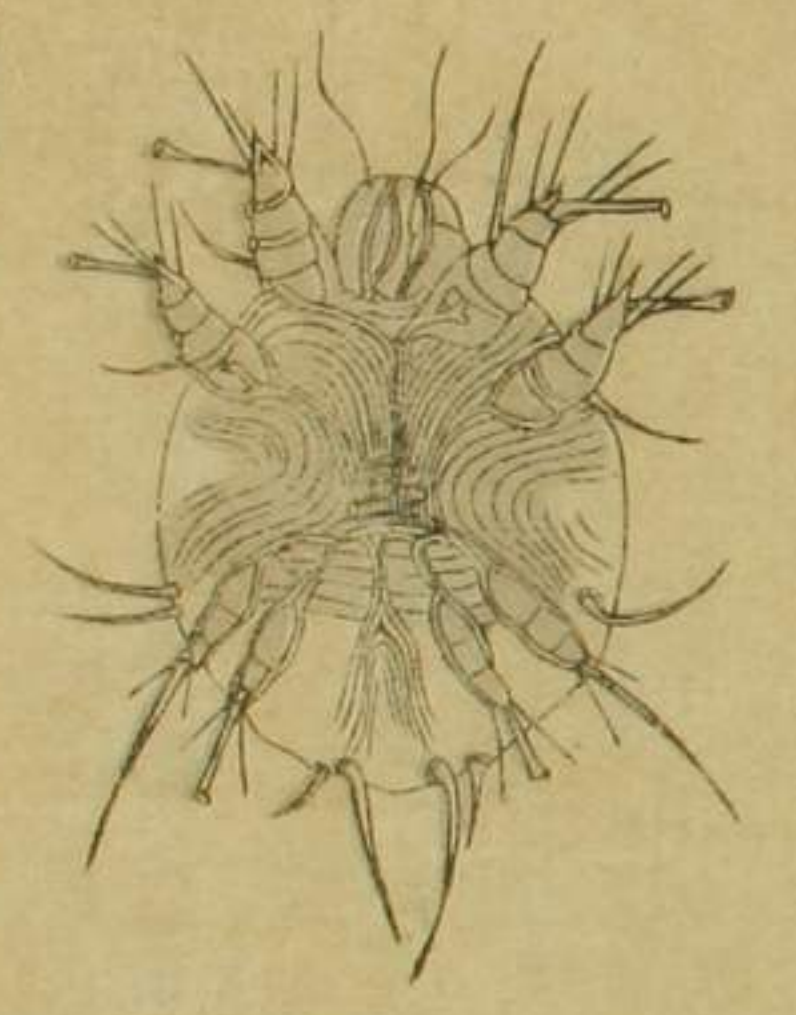


甲 アシキロストマ、デアラデニム

甲 皮脂腺ノアカラス



乙 疥癬蟲





及非學文言

(五)

